建築ト社會

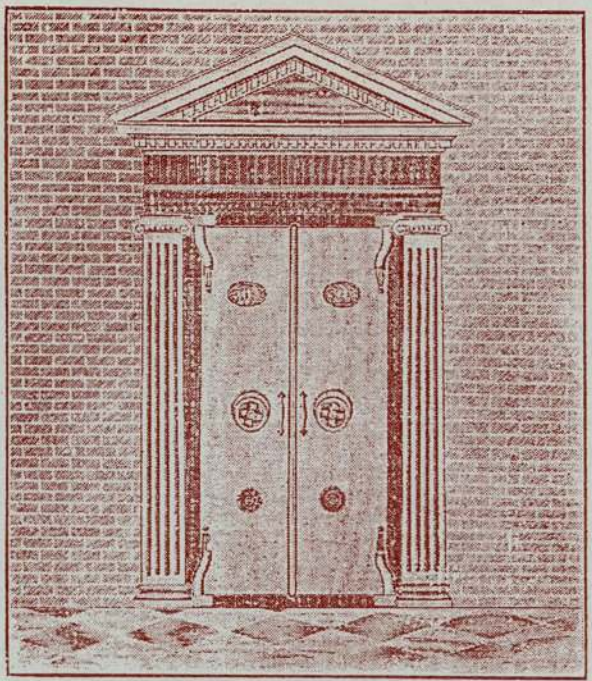
第六輯　第十二号



大正十二年十二月一日

日本建築協會

耐震
耐火 理想鐵扉の出現



金庫
金庫扉 製造界の權威

工場
東京第一工場　東京市京橋區佃島壹丁目
仝　第二工場　仝　深川區東元町
京都分工場　京都市松原通り大宮西入

營業所
東京市京橋區岡崎町二丁目
京都市松原通東洞院東入
大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
神戸市楠町六交叉點西

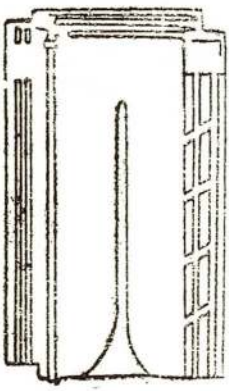
大谷金庫店

店主　大谷榮之介
顧問工學博士　細木松之介
獨逸人技師　ア・シューハルト

設計部ヲ御利用願ヒマス

歐米之文化的建築

佛蘭西式



主なる特長

粘土優良、千度以上の高熱燒製品
美麗堅牢、形態合理
葺土不要、凍害絶無
重量輕減、葺方簡易

◉實質は論より証據　今回關東地方の大震災に於て本洋瓦は剝落破損又は葺方の亂れたもの一枚もなしとの好評を得ました、耐震、耐火、耐寒等一切保證す奮つて御採用あれ

（御申越カタログ定價表進呈）

營業科目
赤色洋瓦
黑色洋瓦
煉瓦類ノ製造販賣
並ニ屋根葺上請負

大阪市西區川口町八番地
川口ビルディング內
日本洋瓦株式會社大阪出張所
電話西（一二八五／二〇八七／二五四〇）番

工場　愛知縣新川町三河工場
最寄電話四六番
分工場　愛知縣高濱町高濱分工場
假營業所　東京市麻布區仲之町十一番地
電話芝三四三番



建築と

第六輯

口繪　川田順氏の「御影」邸

〔巻頭〕

△掉尾の大事件を以て終りたる大正十二年 ……

〔論說〕

△大阪の運河と橋梁の改善に付て　工學士　横濱勉 二

△都市計畫の經濟的基礎　工學博士　チャールス・エー・ヒアード 六

△震害に對する煉瓦建築と木造建築　建築士　小笠原鈔 一〇

〔研究〕

△出火原因となるべき危險性物品に就て ……　大阪府技師　菅野久一 一七

〔住宅〕

△川田順氏の「御影」邸 ……　三太郎 三五

〔都市〕



會社 第十二號目次

△都市計畫の根本的設置
——市街地建築物法の研究——……田中 清志・三一

〔資 料〕

△埃及旅行記（畢）……工學博士・八戸成蟲樓 三九

〔講 演〕

△汚水淨化裝置に就いて……工學士 米元 晋一・五八

〔漫 錄〕

△膀 髮 院……池田谷久吉・七一
——古寺順禮——

△バベルの塔上での會話……水野 邦生・七七

△わたしの日記の一節……成 曾 陀・八三

△復興と修養……山本辰次郎・八四

〔會 報〕

△日本建築協會十一月中記事

スチール サッシュ ドアー シャッター
鉛管 鉛板
水道衛生工事
人造大理石（アートストーン）
セメント

大阪市西區江戸堀南通四丁目一九

田中昌司商店

電話土佐堀局一八〇五番

日通サッシュ關西一手販賣店
東京鉛板株式會社代理店
アートストーン關西一手販賣店
櫻セメント株式會社特約店

張クルコ

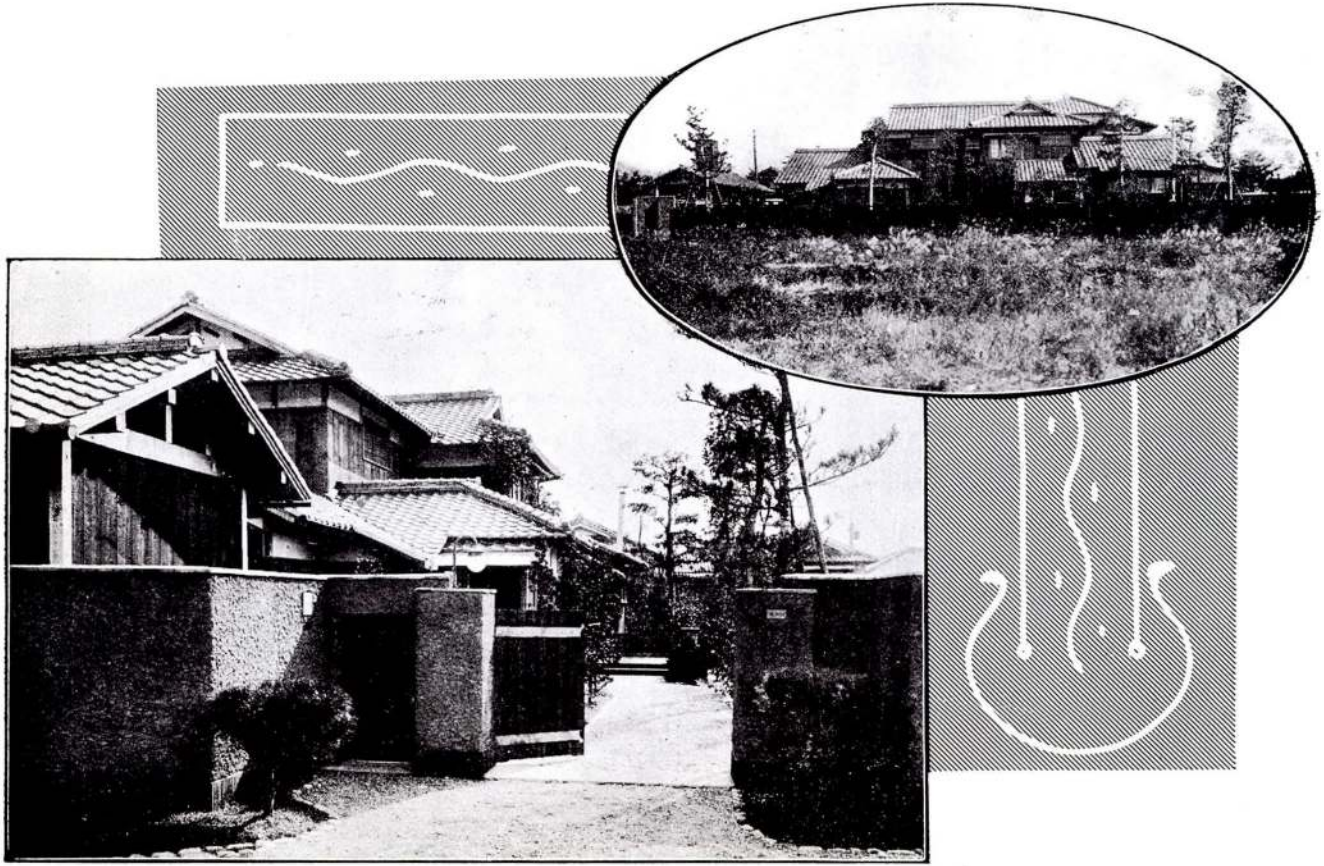
ルイタ
ムーユリノリ
コッタスグマ
張床アシネグマ

店約特 社會會 資合業工ク式 株ム式 エー造 會ル社コ 大阪洋本 東日 ノリ式 煉 店理代

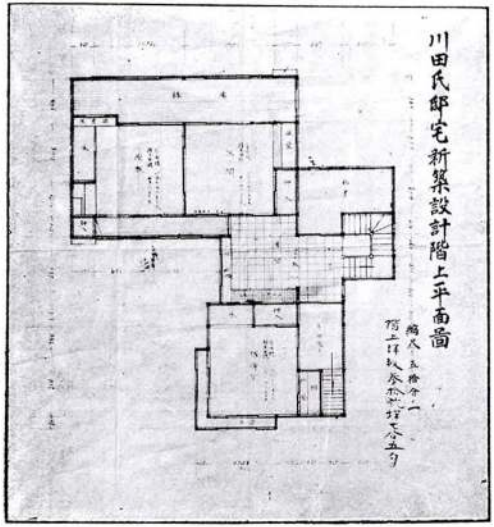
材料及工事請負

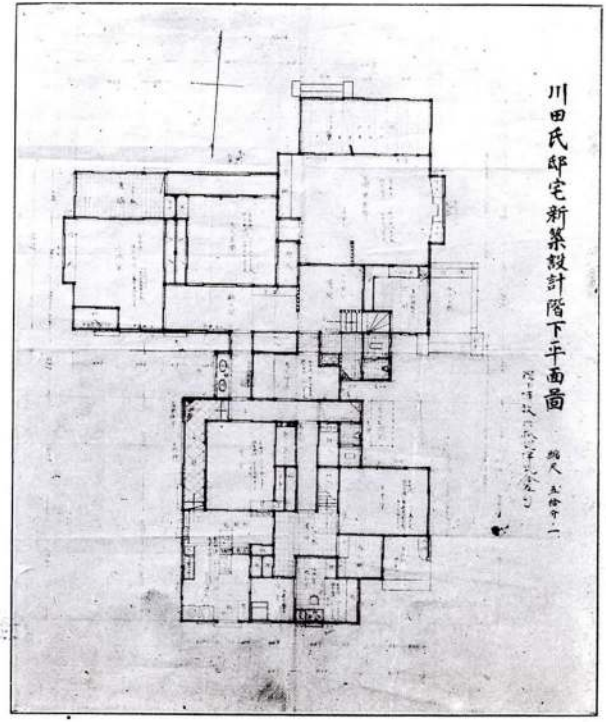
和二商會

大阪市西區江戸堀南通四丁目一九
電話土佐堀一八〇五番

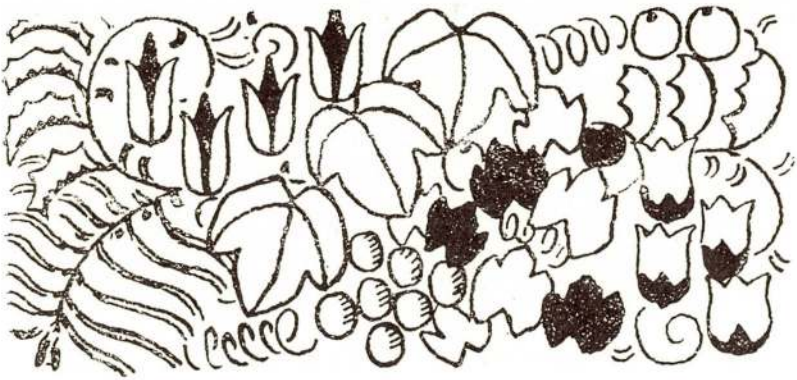


川田順氏の「御影」邸





二　　の　　そ



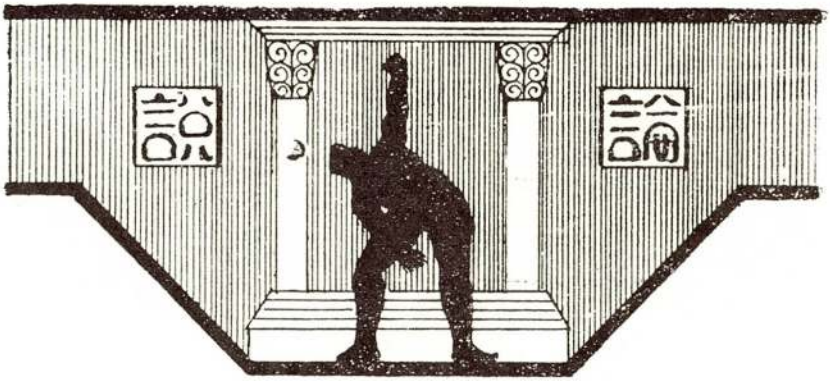
希望の輝ぎ

青、高色　青

空、砂、海
私はお前の無窮に溶ける
私は無限の渚邊を走り
砕ける大波に向つて叫び
私の指で空に觸れたい
私は此の砂のやうに幸福だ
掬つてそれを指の股から滑らせよう

斯うした境地に

いがみ合ひも
情けない排他も――藝術家と
かいふ變曲もないであらう。
我等は斯うした心境に心行く
まで醉ひたいものだ。（郊邨）



大阪の運河と橋梁改善に就いて

工學士 建築士 橫濱勉

この度の關東地方に起つた震災、火災に鑑みて、大阪の都市計畫に關係ある方々の調査報告や意見なども色々と發表せられて居るが、大體に於て一致する點は、左の要項であると思はれる。

一、幹線道路は成る可く幅員を廣くして、路傍樹を植込んで、交通の便と防火に備へたい。

二、各所に大公園を設けて、市民の保健維持と變災時の避難場たらしめたい。

三、商工業中心地の主要建築物は耐震耐火なる鐵骨若しくは鐵筋コンクリートにしたい。

四、橋梁は絶體不燃質材料で構成したい。

その外路面の舖裝は何うの、水道管は何うの、高速度交通機關は何うの曰く何、曰く何……

併しこんな問題は今度の災變以前から或る識者間には議論のないこととして認められ、主張もせられて居たことです。今更こと新らしく考へ

る餘地もないことの樣に思はれます。たゞ今日までは市民全般にその實施に關する眞劍味と、實際的の効果とを味はい得なんだに、過ぎなかつたのだと考へます。

東京といふ不健全な都市は、大正十二年九月一日といふ日に徹底的に或は致命的に近く滅却せしめられたのであります。而して東京と同樣に不健全なる、否、より以上に不健全な素質を有する大阪なる都市即ちより以上に致命的災害の可能性に富む大阪なる都市は、この際に振い上るのは當然で一日も早く適當な治療をして健全な都市にならねばといふ眞劍味を大阪市民全體……こんな場合に眞劍味を持たぬ樣では全然市民としての資格は無いのではあるが……に與へたのでありませう。

それか有らぬか、一億四千萬圓といふ既定大阪の都市計畫は二億圓程度に增進せらるゝ想であるが、要はこの際市民の都市改善に對する眞劍の表現に外ならぬのであるまいか。東京其他の被害地には氣の毒の到りであるが、改善の計畫を進めつゝあつた其他の都市のためにはこの上もない良い敎訓と刺激とを與へたものであると思ふ。

能く有り克ちな姑息な不徹底な改善の悔を千載に殘すものである。今や大阪の都市計畫の實行の緒に着かんとするに際して、市民の果斷と勇氣とを切望するものである。

大阪は昔から水の都の名を得て居たもので、琵琶湖を水源とする淀川を本流として、堂島川・土佐堀川、支流としての安治川、尻無川、木津川や此外東西、南北の縱橫の運河は開鑿せられて、古來舟揖の便を得たものであつた。

そこで其運河即ち堀川であるが、舊幕時代と今日と何れ丈進展の跡が認められるのであるか、尤も本流には毛馬にロックが出來て水量の調節が出來、各堀河の浚渫に依る水深の改修、岸壁の改善も多少は出來てはゐるが、大體舊態依然として新河の開鑿、幅員の擴張など殆んど見る可きものがない。假令陸上に幹線道路の新設、道路幅員の取廣げを必要とするならば、前述の運河にも必要な理由と思ふ。殊に

工業地域に於て然りとするのである。

船場、島の内などの商業中心地域の運河は暫らくおいて、現在工業地たる西野田、安治川尻、木津地方に於ける運河狀態は如何であるか、何千噸程度のバーヂすらも舟行せしむるルートは何哩あるか、これを川口から數千哩を隔つるマンチユスターに於て、數百噸のバーヂを舟行せしむるに足る運河の幾條を有するに比して隔世の感があるのである。

大阪の築港は多少の批難を耳にするが、假りに完全に近いものと爲して置くとして、運河の完全を期せない限りは、血管なき心臟に過ぎない感がある。鐵道とか電車とかの交通機關は工業都市の築港に聯關すを連輸機關としては價値と能力に於て運河に比を視ない處である。

以上は工業經濟上から考へて議論のないところと信ずるのである。

次ぎに所謂大大阪に於て必然將來工業地域と指定せらる可き地方に就いて考慮しやうと思ふ。

南大阪なる津守、敷津地方に於ては僅かに貧弱なる一條の十三間川あるに止まる、北大阪たる歌島千船地方に於ては神津川の自然流を利用するに過ぎない、東大阪たる東野田、城北、城東地方は寢屋川猫間川、平野川を辛うじて利用するに過ぎないのである。

商工業地域たる津守、敷津地方に於ては、徹底的に運河を開鑿し木津川の流水を取り入れこれを築港と聯絡するに非ざれば、その能率を發揮することは出來ぬと思ふ。北は東の工業地域に於ても神崎川、寢屋川を改修し、永遠枯渇を見ざる琵琶湖を水源とする淀川の流水を適當にロックして、引入れ大運河系統を設立せるに非ざれば、共に工業能率を發展せしむることは出來ぬと思ふ。

江戸は八百八町、浪速は八百八橋といはれて昔ながら大阪は橋の多い處であつたのである、そして縮となり、詩となり、劇ともなつたのである。そして市街を美化する一つのエレメントとして取扱はれて來たのである。

現今とても、昔にまして橋の數は多くとも少なくはない。けれども繪となり、詩となる可きものはいくつ有るでせうか。言葉をかへて云ふならば市街を美化するに足る、即ち美術的に製作されたるものはいくつ有るか。勿論いづれも電車や自動車を走らす程度の強度に構成されてゐることはいふまでもないが而し橋は單に人車の交通をなし得れば足るで滿足さる可きものでない。それは街衢に建ち並ぶ家屋の人貨を入れるボツスたることのみを得ざると同樣である。

さて大阪の現在の橋で市街を美化するものはいくつあるか。こゝに裝飾美として難波橋、構造美として大正橋を擧げ得るに過ぎないではないか。

月光を浴びた難波橋を眺むる中の島の夜景にもまして、モーターボートから仰ぎ視る大正橋の偉觀は吾人壯快を禁じ得ざるところである。

爾餘の幾百の橋梁は殆んど數ふるに足るものはないではないか。彼の大阪のビジネスセンターとして奢る可き心齋橋の如きも子供の玩弄物的小規模のものに過ぎないではないか。

假りに美的價値の方面を暫らく置くとして單に構造上から考へても、一朝過般の如き震火災に遇つたならば、その危害のほどはかり知れないものその大多數なるを尤も遺憾とするものである。

聞く如くんば、大阪の郡市計畫の第一期計畫中に橋梁の改造を焦眉の急としてその速進を期することゝなつた想である

大阪の商業中心地に於ける生命の綱とも考へらる可き橋梁の總てが、この度の災害に鑑みてこの際根本的に改造せられ、耐震耐火の構造となることは即ち鐵骨か鐵筋混凝土の構造になることゝ信ぜらる、そしてその大部分は鐵筋混凝土となるであらうと思ふ。吾人市民の同慶とするところである。

この場合に橋その者を都市の美觀として取扱ふことを忘却してはならぬ。

裝飾美でも、構造美でも、何れにしても新時代の都市を美化する素材、詩材たらしめたい、否しめねばならぬことを主張する。（一二、一〇、二五稿）

都市計畫の經濟的基礎

工學博士　チヤールス・エー・ビアード

先づ第一の問題は、國都の種類と性質である。而して、國都は之を二つに分け得る。それは、古代的の帝都と、近代的の帝都である。古代的の帝都は、主もに政治上の關係から出來たもので、それは帝王などの主權者が、自家の尊嚴を示し、その權力を象徵せしむべく創設されたものである。隨つて、現代都市の生命としてゐるような商業や工業は帝都としての要素でなく、それは、寧ろ、第二義的第三義的なものであつた。斯る傾向は、必ずしも古代に許り存したのでなくして、近代に於ても斯る思想の幾分か遺つてゐるものがある。即ち、帝都の都市計畫なるものは、商業や工業の所謂產業都市としてゞなくして、『帝都として』の建設に重きを置かれてゐるかの觀がある。その一つの事例は、華盛頓の如きがそれで　全市の計畫は、主もに政治都市、即ち政府所在地の都市としてのみ行はれてゐる。眞の古代都市の適例としては、先づ日本の京都がそれで、同市は桓武帝に依つて創建されたのである。

近代的の帝都即ち商工業の帝都としての例は、倫敦、巴里、伯林抔がそれで、日本の東京も亦、始めは商業都市として發生したもので、初めより帝都として出來たものではない。それが、後に到つて、帝都となつたものである。されば、東京の大部分は、商業と工業の都市として發達したので、帝都として建設されてゐるものは、その僅に五分の一位なものである。

彼樣に、都市發達の徑路には、やゝ明確に二つの方向を取つてゐるが、近世の都市は、それが帝都であつても、同時に、商工業地としての豫圖を以て計畫されてゐる。蓋し、近世都市の建設に就いて、最

も注意を要することは、それが帝都であらうと然らざるとを問はず、商工業都市たるの考慮を其中に置かざれば、都市としての價値は零である。即ち、近世の都市計畫には、最も經濟的都市としての考慮を拂ふことが必要で、斯の考への入れられてゐない都市計畫は、當に失敗である。

されば、近世の都市は必ずや商業取引の發展工業操作の展張を稽へて、それらに關聯する諸機關例へば水運、陸搬、交通などの機關を充分に設備しなければならぬ。蓋し都市民の生活を支配するものゝ中に、經濟生活は、交通の便否によつて決せられることが多いから、交通機關の完備といふことは、都市計畫の須要條件であらねばならね。

以上、經濟都市即ち商工業都市たるの外に、今一つの考慮を要すべき事は、その都市内に包攝さるべき住宅そのものゝ問題である。住宅には素より各種の階級者があつて　例へば、商工業者、勞働者、俸給生活者、斯うした階級の住宅を考慮されない近代の都市計畫は、亦全然失敗である、と謂つて可い。要するに、都市計畫の中に包容さるべきものは、道路、公園、鐵道、物資集散地、マーケット、學校、官公衙、住宅區域などで、之等は、都會生活者に直接にして多大な關係を有つてゐるものであるから、その一つでも閑却された場合、市民は直ちに一つの損失を來すのである。

次に、都市計畫に含まれなければならぬ今一つの條件は、都市の美觀、といふ事である。國都の美觀は、都市計畫に於て餘り經濟的價値を有つてゐないように思はれるが、わたくし自身の考へとしては、帝都の壯觀、首都の美觀ほど經濟的價値を有つてゐない、と思ふ。換言すれば、國家の隆替は、多くの場合帝都によつて代表されるのであつて、國都殷振の程度は、取りも直さず國家の隆替を示す處のバロメーターである。之を世界の都市に觀ても、巴里、倫敦、華盛頓などが實にその適例である。即ち、不完全なる帝都を有つてゐる國は、それに象徵されるように貧弱にして劣等な國である。隨つて、國際的にも、輕侮を以て觀られる。之に反して例へば巴里や華盛頓のような壯美な都市が出來上つたならば、

國際的にも多大な尊敬を得られると同時に、それがため觀光客などの外來者も殖へて、その人達が國内に遺して行く金錢だけでも決して少なからざるものがあらう。されば、わたくしは、日本の實業家達に向つて、綺麗な都市を造れ、とお勸めする。それは忽ち實業家諸氏の腦裡に浮ぶ處の算呂盤に合はないような仕事ではなく　壯美な都市を拵へることは、決して引き合はない仕事でもなく、不經濟な事でもない。

わたくしは、以上に於て、都市計畫の要綱を述べたのであるが、斯る計畫を以て造つた所の都市は、上記の經濟的價値を增加する許りでなく、今一つの効果として、土地の價格を騰める。わたくしは、その二つの實例として、以下少し許り述べてみよう。

先づ、紐育市を例に採るならば、同市の地下鐵道は、千九百四年に建設されたのであつたが、その後僅に七年間に於て、その沿道の地價は、實に六倍といふような異常の騰貴を示した。又、同市のセントラル・パークは、その建設後十五年間に、約八倍の騰貴を來した。然るに、その他の地方がその期間内に騰貴した率は僅に二倍に過ぎなかつた。又二十年前バルチモアーの大火災後、同市に新道路を拵へたゝめ八エーカーの土積をそれに取られたが、その殘部の土地の總價額は、件の道路敷に失つた價格を償つて向ほ幾等かの餘剩を見たのであつた。是は、要するに、道路計畫を最も賢明な方法の下に行つた所の成果に外ならぬ。斯の二三の實例が示す所により考察してみても、全體としての都市計畫が、最も合理的に、最も賢明な方法の下に行はれたならば、その都市全體の價格を良好ならしむることは疑ひなき事である。

是に就いて尙考ふべき事は、路面の改良である　米國では路面を改良されると、その沿道に於ける地價が、路面の改良前に比して約二倍になるのが通例である。その自然の結果は、沿道の地主は素より、その住民達はそれによつて莫大な利益を享くることとなる。之を米國では「特別賦課（スペシアルイムポジション）」と稱してある。

彼樣に、路面の改良に要する費用は、その道路の改良より生ずる利益を、直接に受くる沿道の住民に負擔させてゐる。再言すれば、新道路の建設や路面の改良によつて、その沿道の住民を最も多く利益するからである。併し乍ら、都市計畫費の負擔を奈何にすべきか、といふ問題に到つては、その負擔分別の問題が餘程難しいため、此處に幾多の議論を生ずるのである。

今斯の問題に就いて姑く考へてみたい。元來、帝都の都市計畫事業費は、何人が奈何なる方法と割合の下に負擔すべきであるか。その負担者は、政府即ち復興院か、市か、直接利益の享受者か、不動產所有者か、問題は多岐に亘る。併し、わたくしの考へを以てすれば、之等の階級や人達は皆それ〳〵の關係によつて負擔しなければならぬ。例へば、帝都の根幹道路や大公園などの建設は、當然に政府自身の負擔とすべきものであり、一般都市計畫事業費は、第一に市、第二に財產所有者が支拂ふべきものである。その他、特別負擔として、地主にも負擔せしめなければならぬ。特別賦課に就いては、東京市政研究會からわたくしの意見を發表する外、わたくしの講演集を讀むで頂きたい。

帝都の都市計畫殊に帝都の復興事業費の配分比例は、實に面倒な問題である。けれども、國都即ち帝都としての威嚴や美觀や壯麗などに要する費用は、怎うしても國家が負擔すべきものであり、普通の交通機關や小公園や、乃至は貧民窟の整理などに要する費用は、中央政府や宮內省の如き四百萬坪以上の大地主として當然負擔すべきものであつて　官憲たる關係に於てゞはない。是れに就いて、東京市そのものは、全費額の三分の一位の負擔で可なりと思ふ。そして、その殘額全部は、市內の土地所有者に分負せしむべきである。と云ふものゝ、是れは　わたくしの意見である。負擔配分率の問題は　實に難しい問題であつて、そう容易に決し得べきものでない。要するに、政治は妥協であるから、單に、理想論や理屈許りで、到底行はれるものでない。けれども、その妥協は、所詮、此處に述べた處の原則を固守したそれでなければならぬ。（文責在記者）

震害に對する煉瓦造建築と木造建築

（十月廿一日名古屋市に於ける講演）

建築士　小笠原鋧

私は日本建築協會から派遣されまして去九月下旬に東京の大震害の跡を視察して參りました一人で御座います、之に就きまして本夜少しく御話を致したいと思ひますが、何分にもかゝる大盛會の皆樣の御前で御話をすると云ふ樣な事柄は私に取りまして始めての事でありまして且聲量もないもので御座いますから定めて御聞苦しい事で御座いませうと思ひますが暫時御耳を汚します、尚又私は無論淺學微力のもので御座いますから本日茲に御話致します事柄に就きましても或は私の誤解して居る點も御座いますやも計られませぬから之は豫め御許を願ひたいので御座います。

御當地は去明治廿四年に濃尾の大震災がありまして、既に地震に就ては苦き御經驗を御持ちの方が此内にも御出の事と思ひますが私も丁度あの時御當地の中學校に居りまして其震災にあひました一人で御座います、本日偶然にも此處で地震に就ての御話を致します事は誠に深き感ある次第で御座います。

偖て地震と申しますものは必ず火災を伴ふものでありまして御當地の地震のときも其通りでありましたが併し此時のは其火事の災害と云ふものがソー大したものではなかつた樣に記憶致しますが、今回の東京横濱に於ける震災に伴ふ火災と云ふものは實に激甚で慘憺を極めたるもの、全く一望の燒野原、ドーシテコーモ燒けたものかと一時呆然たらざるを得ぬ樣な次第で御座います、既に皆樣もアノ地を御覽になつて能く御存じの事と思ひます。

丁度濃尾のときは朝食事の時間で、火の取扱の濟んだ跡で無論あのときは風もなかつた樣に思ひますが大體に於て今日に比れば人家稠密の度が大邊少なかつたと思はれますから、あの樣の程度の火災で濟んだのではないで御座いませうか。

然るに東京のは丁度晝食の仕度中で火氣の取扱も多く、殊に當日は可なりひどい強風であつたので御座いまして又昨今の東京に於ける人家の稠密の度合のはげしかつた事、モ一ツは地震の爲に今回は殆んど屋根瓦の全部が剝脫して居りまして火の子が落ちれば直に焚へ付くと云ふ狀態にあつた事などが此大火災をなしたのではないかと私は思ひました。

尙又震災に就きましては濃尾の地震は學術上の說では引力に對する震度の關係が、確か二千粍と申されて居た樣に記憶致しますが、今回のは東京の山の手邊が千六百粍下町方面が三千ミリ横濱及湘南地方は夫れ以上だと申します、しますると東京の被害は山手方面に於ては濃尾よりも輕く下町方面で稍重い事になります、之を以て當地の地震と御考合せになれば略其震害の程度が御想像のつく事と思ひます。

私が東京へ參りましたのは九月の下旬でありまして各所の整理が稍つきかけた處でありましたし下町方面は殆んど全燒して居りますから震害を受けた煉瓦造建築は所謂廢墟をなして居りますが木造家屋の震害の實況は一寸分り兼ねましたが聞く處によりますと本所深川は勿論神田邊も大分倒潰家屋が御座いましたソーです。

現に見ましたのは麻布簞笥町より六本木方面に參ります處の民家などは大部分傾斜して居る樣で御座いました。夫れから赤阪四谷麴町等の山手にある比較的無難なる民家を見まして、之を濃尾の震災と思ひ合せて見まするど其處に學術上の震度が其被害をハッキリと證明して居る樣な氣が致しました。

實に今回の關東大震害は申迄もなく慘憺たる未曾有の災害で國家的の大損害ではありますが、又一方から申すれば學術上非常に有益なる實驗を示されまして所謂世界の地震國なる我國の都市計畫又建築

技術に對し或る光明を與へられたるやの感があります。

之に對し定めて今後は有益なる研究が發表せらるゝであらうと信じます。

偖ソコデ愈私の本論に立ち入りますが

震災に對する煉瓦造建築と木造建築と云ふものはどうであらうかと申しますと

之は煉瓦造は火事に對しては相當有效なるも地震に對しては脆い木造は或る種類の構造では相當地震に耐ゆるが火事に對しては無價値即ゼロである。

と云ふ事でゝは既に濃尾震災に際し震害豫防調査會なるものが設けられ此二ッの建築に就ては相當研究されて居つたのであります。

今度の大震災に依りまして愈其研究の結果が其證明を與へたと云ふ樣な事になつたのだと私は思ひます。

先煉瓦造建築に就て申上ますれば

濃尾震災のときは御當地でまだ珍らしかつた、煉瓦造の師團司令部が大崩壞をしたと記憶します、尙又廣小路にありますアノ郵便局の二階が全部崩壞して七間通の民家を澤山ブチ壞はしました、之等は皆樣も御存じと思ひます。

今回東京に於きましては

上野の博物館、帝國大學の一部、九段有集館、英國大使館、上智大學、青山學院大講堂及高等科中學科敎室赤十字病院本館等を始めとし所謂銀座の煉瓦家屋等殆んどあらゆる煉瓦造建築物は甚敷震害を受け崩壞又は大龜裂を生じ其大部は一寸使用の出來ぬ程度になつて居ります。

中にも青山學院の高等科敎室や麴町の上智大學などは餘り古くなきもので御座います。

此の如く殆んど煉瓦造建築が害を受け殊に山の手方面の震度の割合に低い處にあるものまでも甚敷し

く震害を蒙て居ります、ソーシテ之等の建物は大抵二階建か三階建位のもので御座います。

然るに煉瓦造建物でも日比谷の司法省、裁判所、海軍省、三菱村の東京商業會議所、明治生命、三菱の貸事務所、半蔵門の市電變電所等は極めて無事で些の被害を受けて居りませぬ、之等も亦二階或は三階建で御座います。で御座いますから私は之を一見したときには之は何か特別に念のハイッタ設計なり仕事なりがしてあるのだなと直感しましたが、今度或る方から伺つて見ますると之の建物は特に地震と云ふ事を考へ特に夫れに耐へる樣に考へて設計せられ煉瓦目地の中には鐵の補給材が入て居るソーで御座います。

之に依りますと愈濃尾震災に際し其後の煉瓦建築に就て發表せられたる耐震構造法が明かに證明せらるゝ譯で煉瓦造は特別に研究せられたる耐震構造によらなければ、先地震には危いものとせなければなりません、併今日の時代に於ては製造所に於て産出しまする煉瓦の品質や之を扱ひまする煉瓦工其他の職工の思想及腕を考へまして果して前述の樣な耐震構造が設計せられましても、其實物が果して完全に出來上りませうかどうか夫れが爲に却つて補施工事其他に莫大の費用がかゝり今日では極局鐵筋コンクリート構造の法が便利で且經濟的に造り得ん事になるだらうと私は思ひます。

殊に今日御當地始め六大都市に行はれて居りまする市街地建築物法から見ましても煉瓦造建築に種々なる制限がありまして比較的小なる建築物の外は其構造を認めて居りませぬ、故に今回の震害を見まして私は今般我國に於きましては比較的小なる特種のものゝ外一般に煉瓦造建築は適せぬものと考へるもので御座います。

次は木造建築でありますが東京山の手方面の震度少き處は大抵無事でありましたが併屋根瓦は大抵フリ落され壁には龜裂を生じました、下町方面では前申しました通り大分倒潰が多かつたと申します、特に又湘南地方では殆んど建て

居る家が稀な位だそうです。

汽車で見ましても箱根の下曾我松田山北附近では草家もトタン屋根の家をも倒潰して居ります。

木造建築としても大體無事のものは所謂耐震的構造の木造洋館と稱する學校建築、兵營建築等の様な柱の多い筋違のハーツタ下見張木摺壁構造と云ふ様たもので御座います。

青山の女子學習院、東京府立師範學校其他コー云ふものは此の被害もない様で御座いました。

之を見ましても矢張前申上ました濃尾震災後に研究せられた耐震構造法の必要なる事を證明して居るものと思はれます。

勿論淺草の觀音や芝の增上寺等も無事でありましたがアー云ふ社寺殿堂の建築は基礎も丈夫に出來て居り、プランが稍方形で柱が多くて太く軒の組物が耐震的で軒の出多く自然にヨキバランスを取て居りますから殆んど震害を受けた例が少いのであります。

加ふるに周圍が大なる空地と鬱蒼たる樹木があつて十分に火災から保護したので安全であつたのだと思ひます。

只今一般に行はれて居る様な民家の木造建築では無論地震も不耐火事にもゼロでありますから、結局木造建築もやめなければならない様な事になります、勿論都市計畫が施行されますれば都市のシビックセンター、ビジチスクヨーター等は自然防火大地區となりまして段々都市の中央から追ひのけられる事にはなりますが。

併し木造建築を全然廢止すると云ふ事は到底我國の現狀では出來兼ねるかと思ひますそこで都市の外方や所謂郊外即サバーブの建築や一般の住宅建築等に對しましては木造は今後も採用されるものと思ひます。

故に木造建築は是非之を耐震構造にせねばならぬ、且又火災に對してゼロであるけれども幾分でも燃

へ惡き程度位のものにしたいもので御座います。

御當地では既に濃尾震災後此御考を以て造られたる建築が澤山おありの事と思ひますが、今後我國は何處でも木造建築を是非耐震的に改造せなければなりませぬ。

而して之は無論三階以下のものならば相當に力ある耐震的構造に改良し得ると思ひます、三階でも少し注意を加ふれば之も出來るかと思ひます。

之を詳敷申しますと技術上の細部に入りますから申しませぬが、大體の例を申しますならば、其礎を丈夫にする事、之迄の木造民家には殆んど完全なる基礎はありませぬ之はせめてコンクリート位にしたいのです。

柱の斷間を大きくする事、オープニンク及明放を縮少する事に今日までは建築は明放しが多い、殊に椽側の隅柱などは殆んど皆計算上安全耐力のあるものはありませぬ、今後是非椽側の隅などには三本位柱を入れる樣にしたい。

壁を多くし筋違を入れる事、或は眞壁の一部を鐵網等を利用して簡單に鐵筋壁を作る事。

接合點は全部金物を使用する事、今迄の柱は殆んど穴だらけなる爲折れ易い。

屋根瓦は釘付にする事　スレートや赤燻瓦等は今度も無事でした。

と云ふ樣な點を注意構造すればよろしいと思ひます、尙又木造建築を幾分でも火事にもへ惡くすると云ふ事はマダ〳〵研究の餘地のある事と思ひます、化學的の方的を以て或る藥液を注入し木材が直接に火に燃へ惡くなる樣にする事も其一つでしやうが、軒先を防火的材料で包むとか外壁を大壁塗にするとか其方法を研究すれば此目的を達し得やうかと思ひます。

此處で一寸申上ますが、木造の外壁を防火的にする爲に木骨煉瓦張にする如き事は震害を伴ひまして無論よろしくありません。

かく改良しましたる上尚木造建築の周圍には相當の空地と樹木を置く事は勿論必要で之を以て小火を防ぐべくするのであります、乍併木造建築には木材の腐朽と云ふ缺陷がありますから此點は各自十分に御注意になつて適當の時機に完全なる修理を施す事が必要であります。

尚最後に一言申上度事は家屋は皆樣自身の生命財産を保護すべく尤も貴重のものでありますから曩に濃尾震災に際し震災豫防研究會で發表せられたる學者の意見に基き直に改修を加へられて置いたならば東京の震害も今少しく輕く濟みはしなかつたかと思ふのであります。

一體に世人が前陳の如く生命財産に關する大事の建築物に就て餘り無關心で一度建た家は腐さらうがゆがもうがかまはず、三・年でも四十年でも平氣で住んで居ると云ふ樣な事は今後直に改めて總て神經的に其建物が完全であるや否と不絶保護すべき心持になられ度望むのであります・尚又木造建築に入つて居る以上は少くも消火器の一本や二本は平常之を備へ置き萬一に備へる位の用意は是非必要の事と思ひます。

誠に詰らぬ事を長々申上失禮致しました。

爐ほとりを去らぬ蠅一つ

夜寒かな



出火原因となるべき危險性物品に就いて

大阪府技師　菅野久一

地震の時に火の用心の肝要なることは古老も夙に之を戒めて居るところであつて、今度の大震災でも單に震害のみでなればその物質的損害は約二十分の一に止り又死者の如きも四分の一位で濟んだ筈であるが、震後瞬く間に各方面から出火したゝめに災害の範圍を一層擴大したのであつて、就中東京市はその樞要地帶が悉く焦土と化し、横濱横須賀の兩市は殆んど全滅し一望の及ぶ所たゞ荒寥たる燒野原あるのみで、火災が我々人類に取つて如何に大なる脅威であるかは今更ながら誰しも痛感した所である。

所がこれらの火災の出火原因は未だ適確なる調査は發表されないが、地震當時は恰も晝餐前後であつたからその炊事用の火氣不始末に基いたものも無論多かつたであらうが、藥品の自然發火も相當あり、警視廳の調査によれば、麹町高等小學校

慈惠院醫科大學藥局、高輪御殿寶物館、東大理學教室、下谷二長町、淺草藏前町、千束町、日本橋本町方面などの出火は何れも危險性物品に因るものであつて、關係當局者の間にもこの問題は相當論議され又、世人の視聽を聳てしめて居る、工學博士大島義清氏が新に震災豫防調査會委員に列したのも這般の消息を語るものであるまいかと思はれるのである。

さて危險性物品に因る發火又は爆發に關する研究は私共の稱する所謂災害化學に屬するものであるがこのもの〻研究は不幸にして世界を通じて最も閑却されて居て、我が國でも最近漸く京都大學に於て一般災害の科學的研究の計畫は樹てられたが未だその實績を示すに至らない模樣である、從つて私共は極めて僅少な文獻と先賢の敎ゆる所を基礎として實際上遭遇した災害例に依つてその研究と調査を進めて行く有樣である、尤も火藥類や瓦斯類については相當纏つた研究が完成され、且當事者の自衛的警戒と當該官憲の取締に依つてその災害はある程度まで防止されて居るが、その他のものについては法規の如きも僅かに警視廳令爆發性取締規則、大阪府令危險物品取締規則或はこれらに類似した二四の府縣令あるのみで、その適用範圍も一定量以上の貯藏を主として居るに過ぎないのである

然し、これらの危險性物品は分量が少ないためにその危險性が滅却されるものでなく、寧ろ少量でも時によつては大災害の原因となるものであることは今度の震火が最も明確に立證して居るから以下、私は比較的人口に親炙されて居る主要なるものについて、その危險性の大要を述べ一は世人の注意を喚起し 他は建築關係の人々の考慮を煩したいと思ふのである、

（一） 爆發性物品

（イ） 鹽素酸鹽類

鹽素酸加里、鹽素酸曹達、鹽素酸アンモニウム鹽素酸バリウムなどを總括して稱するものであるがその危險性は何れも大同小異であり、即ち加熱せられて急激に分解すれば爆發し、又藁、木片、紙片などの有機質物、燐、硫黄、炭素、

鐵などの無機質物、或はアルコール、單寧酸、石炭酸などと混合せるときに、摩擦、衝撃、振動高温などの刺戟を受くれば極めて容易に發火し又爆發するものである。

この鹽類の中で最も普遍的に存在するのは鹽素酸加里と鹽素酸曹達とであつて、前者は普通鹽酸加里又は單に鹽剝と略稱されて居る、後者について特に注意すべきはその潮解性である、即ち容器又は包裝が不完全なるときにはこのものは大氣中の濕氣を吸收し、その濕潤せるものが紙や木に滲透するとき、摩擦、衝撃などの機械的刺戟に對して極めて敏感となるのである、かの大正六年五月、大阪に於ける東京倉庫の大爆發は實にこの濕潤せる鹽素酸曹達によつて誘發されたのである。

（ロ）過鹽素酸鹽類

過鹽素酸加里、過鹽素酸曹達、過鹽素酸アンモニウムの類であつてその危險性は鹽素酸鹽類と大なる徑庭はないが、過鹽素酸アンムニウムの如くカーリットと稱する爆藥の原料に用ひらるゝものゝ外は普通極めて少量づつ、特殊の場、所例へば藥局とか實驗室などに貯藏せらるるに過ぎない。

（ハ）過酸化物類

過酸化加里、過酸化曹達、過酸化バリウム、過酸化マンガンなどは加熱せられるとその過剩に有する酸素が分解遊離して激烈なる酸化作用を起すために木炭末、砂糖、澱粉、紙、木、綿、硫黄、樹脂、油脂、アルコール類、エーテル、ベンゾール類、石油類などの可燃性物又は有機性物が附近にあると發火爆發するものである。殊に過酸化曹達の如きは獸毛などの漂白劑として廣く用ひられるものであつて、このものは水に觸れても發熱發火するのである。

（ニ）硝酸鹽類

硝酸加里、硝酸曹達、硝酸アンモニウム、硝酸バリウムの類も亦各々爆發性を有して居る、硝酸加里は普通硝石と稱せられ、黒色火藥、煙火の原料に供せられ、又硝酸アンモニウムは硝安と略稱して爆藥製造に用ひられるものであつて

一般にその危險性は塩素酸塩類や過酸化物類に比して劣るけれども、矢張、加熱せらるると分解して爆鳴を發しつゝ燃燒し又その附近に一般可燃性物、有機性物或は硫化アンチモニー、鷄冠石などの摩擦劑が存在すれば爆發するに至るものである。

硝酸曹達は普通智利硝石と稱し主として肥料に或は硝酸などの原料に供せられるものであるがその容器である俗稱ドンゴロスに濕潤したるこのものが滲透したるものは爆發性を帶びて居る其の他亞硝酸加里、亞硝酸曹達、亞硝酸アンモニウムなどの亞硝酸塩類も加熱によつて爆發することがあり又、過マンガン酸加里、クローム酸加里、重クローム酸加里、青酸加里の類も加熱或は他の可燃性物、有機性物の混入により爆發性を帶ぶるに至るものである。

以上の外に爆發性の著しいものに硝化棉とピクリン酸及その鹽類とがある。

前者は主として棉花藥、セルロイド、コロヂウム、擬革紙布などの製造に用ひられ、後者は醫藥染料、火藥、爆藥の原料に供せらる。

硝化綿はその品質粗惡なるものはその貯藏中に自然發火し或は加熱によつて分解して共に爆發し品質優良なるものでも多量に堆積せらるゝか或は密閉器中にあるときは高溫又は加熱によつて爆發する虞がある。

ピクリン酸は點火すれば燃燒するも爆發しない又摩擦、衝撃などの機械的刺戟に對しても鈍感であるが酸化鐵、酸化銅、鉛丹などの金屬類が混入するとこ一變して鋭敏となりて轟爆するものであるからその鹽類であるピクリン酸加里、ピクリン酸鐵、ピクリン酸鉛なども同樣の危險性がある。

（二）發火性物品

（イ）燐類

これには黃燐、赤燐、硫化燐などがある、就中黃燐は普通大氣中に於て自然發火することがあるから常に水に浸して貯へるのであるが往々その容器が顚落して黃燐が大氣中に曝露されるために出火することがある、又摩擦、衝撃によつても發火し攝氏六〇度に加熱すれば容易に發火

する、その他鹽素酸鹽類、過酸化物類硫黄などゝ接觸すれば自然發火し又鹽素瓦斯、亞硝酸瓦斯中に於ても燃燒するものである。

赤燐は黄燐に比してその化學的作用は劣るけれども鹽素酸鹽類、過酸化物類又はクロム酸加里などと共に熱すれば爆發し或は鹽酸加里、重クロム酸加里、酸化マンガン、酸化アンチモニー鐵粉、硝子粉などと混合せるものは摩擦によつて發火するものである。

又市販の赤燐中には多少の黄燐が含有して居ることがあつてこれがために自然發火することもある。

硫化燐は黄燐の代用として黄燐と硫黄とを化合せしめて製造したものであつてその中に未化合の黄燐が殘つて居るために自然發火することがあり又摩擦、衝撃、加熱などのために發火することがある。

（ロ）　金屬アルカリ

金屬加里と金屬曹達の二種であるが前者は單に加里又はカリウム、ポタシウムと云ひ、後者は曹達、ナトリウム、ナトロン、ソヂウムと稱せらるるものである。

この兩者はその危險性が相類似しその酸化力強きために大氣中に於ては速かに變化し又水に觸るるときは之を分解して發生する水素と共に發火燃燒する、又炭酸瓦斯、酸化窒素瓦斯中に於てもよく燃燒し、二硫化炭素、硫黄、燐などとは烈しく作用して光と熱とを發するから可燃性物が附近にあると燃燒せしめることがある。

斯の如く金屬アルカリは共に大氣中に於て變化し水中に於ては發火するものであるから普通、石油に浸漬して貯藏することになつてゐる。

（ハ）　生石灰及その誘導體

生石灰は又煅製石灰とも稱し水濕に觸るゝときは發熱膨脹しその溫度は品質不良のものでも攝氏二七〇——三〇〇度に達し品質優良なるものにあつては四〇〇度に及ぶからその附近に藁、木片、紙片などがあると之を燃燒せしめて遂に出火の原因となることがある。

燐化石灰も亦、水濕の接觸によつて發火するが

炭化石灰（カーバイト）は水分を吸收して可燃性のアセチレン瓦斯を發生するものである。このアセチレン瓦斯は點火すれば光強き焰を放ちて燃燒するのみでなく、その空氣の一定量と混合すれば爆發性瓦斯となり又、銅に作用して爆發力強きアセチレン銅を作ることがある。

（二）　セルロイド

このものは燃燒性が著しいのみでなく品質不良なるものは加熱又は高氣温のために分解して可燃性瓦斯と熱とを發生し、この兩者が次第に蓄積されて遂に爆發するに至ることがある、尤も品質優良なるものはかゝる分解作用も緩慢であつて單に高熱體又は火焰の接觸によつて特有の燃燒性を發揮するのみであるが何れにしても火災の原因として注目を要するものである。

（三）　引火性物品

引火性物品は一般に比較的低溫で引火するのみでなく、その多くはその蒸氣又は瓦斯が空氣の一定量と混合すれば爆發性を帶ぶるにり至り之に點火し若は引火すれば爆發するものである。

今引火性のやゝ大なるものを列擧すれば。

テレビン油（ターペンチン油又は松根油）、アセトン、コロヂウム、木精（メチルアルコール）、酒精（エチルアルコール）、變性酒精、エーテル、メテルエーテル、メチルエチルエーテル、醋酸エーテル、醋酸アミル、亞硝酸アミル、亞硝酸エチル、燈用石油、揮發油（石油エーテル、ガソリン、石油ナフサ、リグロイン、石油ベンヂンを含む）、ベンゾール、ナイトロベンゾール、キシロール、ソルベントナフサ、トルオール、ナイトロトルオール、二硫化炭素、

などであつて、これらは火焰又は白熱體と相當離れて居ても引火するのみならず、種々の物品と混合して自然燃燒又は自然爆發を起すことがある、又エーテルの如きは日光の直射によつてヴイニルアルコールが生ずるときは爆發する虞があり、二硫化炭素の如きは日光の直射に因つて爆發し或はその器壁と摩擦して生ずる電氣のために自然發火若くは自然爆發を起すことがある。

以上類別摘記したものの外漂白粉（晒粉）の箱

詰にせるものは日光の直射により、鹽化硫黄は激しき動搖或は高温のために自燃することがある。

又、一般に人の注目を惹かざるもので發火又は爆發するものがある、その一は石炭であつてこのものはその長期堆積によつて一種の酸化作用を起して遂に自然發火するものであるがその酸化作用は石炭自身に行はれるのであるか或はその含有成分のあるものが行ふのであるかについてはいろいろ異説があつて一定して居ないのである。

その二は油布、油紙、油脂壓搾袋、機械油拂拭襤褸、魚肥、鯨肥末などであつて、これらは空氣の流通不良なる所に堆積して置くか或は高温の作用を受けるとその油分が酸化して自然發火することがある。

その三は粉塵であるがこのものはその浮游飛散換氣不良、高熱高温などの狀態にあるとその分子間相互の摩擦作用に因つて發火爆發するもので炭塵(石炭粉塵)、棉塵、木粉塵、穀粉塵、炭末、骨灰其の他一般塵埃何れも然りであるが就中乾燥炭塵は最も危險である、又金屬粉塵もこの種の危險性を有し、亞鉛粉塵は濕潤せる大氣中に於て自燃又は自爆し、アルミニウム粉塵、青銅粉塵、鐵粉塵の如きも亦自然發火或は自然爆發を起すことがあるのである。

最後に特記すべきは瓦斯類の爆發である、普通瓦斯體として爆發性を有するものは、石炭瓦斯、水素瓦斯、アセチレン瓦斯、硫化水素瓦斯、メタン瓦斯、水性瓦斯、ピンチ瓦斯などであるが就中石炭瓦斯は世人によく知られて單に瓦斯と言へばこのものを意味する位であつて一般家庭にも用ひられて居るのであるが往々火災又は爆發の發源體となることがあるから稍詳しく述べて見よう。

先づ第一に瓦斯溜の爆發であるがその危險は絶對にないと信じてよいのであつてかの東京瓦斯會社、大阪瓦斯會社の瓦斯溜が昨年中に相次いで一種の災害を惹起したために世上では之を等しく爆發と稱して非常に危惧し又ある消防官でさへ爆發であると主張して居るが、私共の立場からすればそれは單に鐵板の腐蝕に因る瓦斯溜の損壞と云ふべきものであつて偶々その逸出瓦斯に點火したた

めに人心を騒がしたのに過ぎないのである。

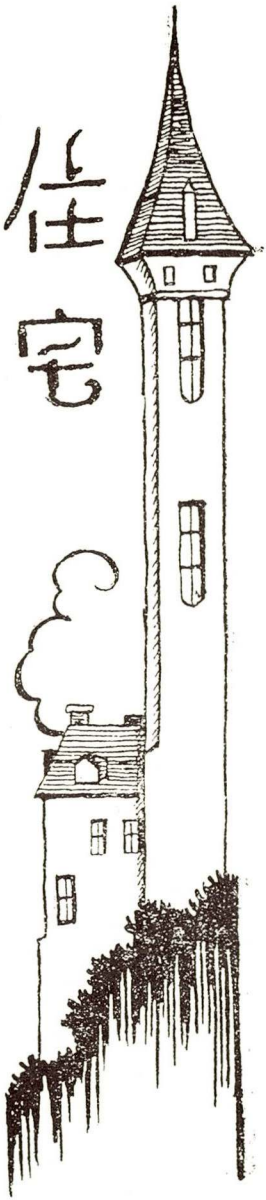
かく瓦斯溜はその爆發の危險はないのであるが石炭瓦斯そのものは空氣の一定量と混合すれば爆發性を帶ぶに至るものであつてその空氣の分量は研究者によつて所說を異にし、クロース氏の如きは空氣量の限界を六―二〇%なりと稱し、ブンデアイトナー氏の如きは八一―九二%なりと唱へ又ジー、ウキーゼ氏の如きは石炭瓦斯と空氣との混合比が一と一五乃至二〇に達すれば爆發性になると論じて居るのである。

何れにしても石炭瓦斯と空氣との混合せるものは爆發性を有し、之に點火するか或は引火するときは轟爆するものであるからその使用が終れば之を漏洩せしめないやうに瓦斯栓を密閉し又瓦斯管の接合部に故障があるときは供給會社に通告して修繕せしめなければならない、しかし瓦斯の漏洩はその特有の臭氣によつて容易に知り得るのであるから先づその漏洩せる室を開放して漏洩瓦斯を逸散せしむることが必要であつて猥にマッチを擦つたり、燭火を近付けたり其の他裸火を近接することは絶對に避けなければならない。

以上は出火原因に關係ある危險性物品について概說したのであるが從來は一般に學界といひ官界といひはた又民界といひすべてこの種危險性物品の研究及施設について冷淡であつたことは覆ふべからざる事實である、しかし今度の大震火に依つて各方面が多少なりとも覺醒したことは一の天啓とも云ふべく今後は官民相協力して火災及爆發に關する科學的研究とその豫防施設即ち災害化學の達成に努めなければならない。

かの英國に於ける防火委員會の制度、米國に於ける國民火災防止協會の如き又取つて他山の石となすべく又消防組織、消防機關なども今度の大火に鑑みて一大改善を加へることは急務の一であるが根本問題である火災又は爆發の本體を究めずして之が對策を樹てることは蓋し不可能のことではあるまいか又私は我が國の火災保險業者がこの災害化學の研究及調査について更に今一段の努力を切望せざるを得ないのである。（了）

× × ×



住宅

和様の氣分を洋式の手法に象徴したる

川田順氏の『御影』邸

―口繪參照―

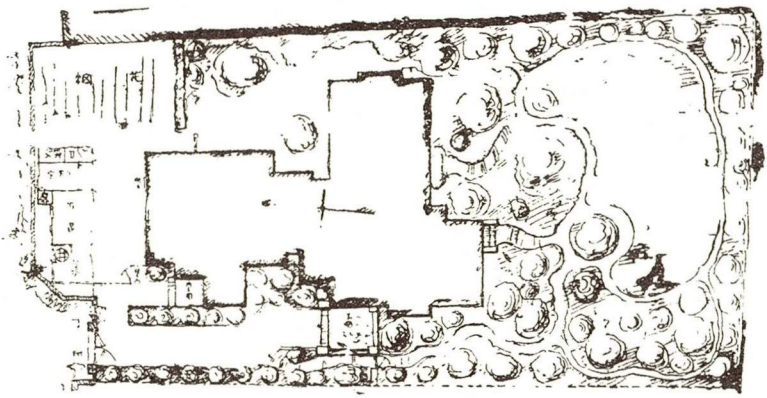
郊外邸

川田順――といふ名前は、住友製鋼所の支配人といふ位地よりも、寧ろ、歌人としてのそれの方が、よほど親みがあるように懐はれる。わしは、その支配人……ではない歌人の川田さんが、阪神沿線の御影に新邸を拵へられた、といふ噂を聞いて、わたしの心を唆つたのは、うたびとゝしての趣味性が、その新邸に恁う象徴されたであらうか、といふことであつた。バタの香は愛すべきものだが、お茶漬けの趣味も亦なかなかの味であるバタとお茶漬け、それを恁う調和が出來たであらうか。是れが、わたしの心を唆つた今一つの想像であつた。

わたしは、斯うした少からぬ興味を包むで、某氏に伴はれつ或る日の半日をその新邸に過した。

秋晴れに光る「御影」の郊外、六甲、摩耶の山嶺を間近に仰いで、茅海の湛へを彼方に控へせゝら小川に椽取れる白砂利の小徑に、倭松の綠叢が行儀よく點綴せる間を十數歩、奈何にも素雅な氣分を惹く日本瓦の雨覆ひせる低い門柱に型の如く金ピカでもなければ、窯きものゝ俗氣でもない、白木の札に、横書きの「川田順」と造作なくやつてあつたのには、先づ此處で、わたしの期待が現實であつたことを嬉しく思ふた。

門を這入つて數歩、わたしは表から裏へ、前栽から椽側へと見廻はした。純然たる日本屋である。そして、恰好（プロポーション）も、構造そのものが、多角形な、多層式なのに、ほんとうに氣持ちのよい程均勢と整調が取れてゐる。



川田順氏（御影邸）の配置圖

併し、よく覽ると、要所に、洋式建築の手法が試られて、それが、しッくりと、鮮彩もらてる日本式氣分を漂はしてゐるから面白い。

先づ玄關に這入る

玄關入口の戸を、型の通りに洋風の開き戸でなくして、格子戸を利かした板戸に、岩板硝子を嵌めた引違ひ戸としたのは思ひ附きである。

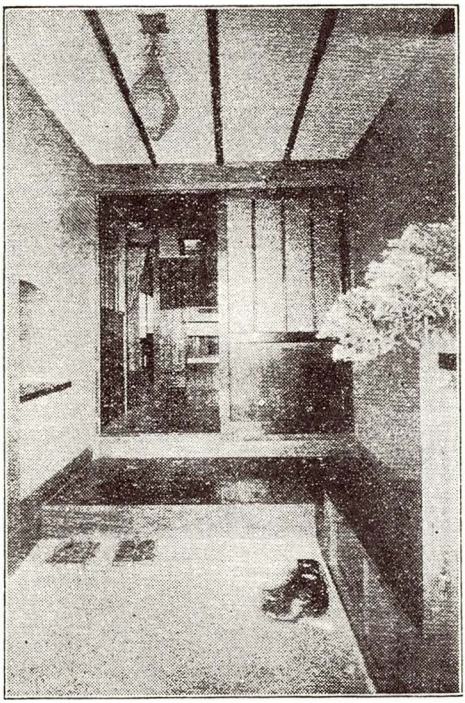
玄關口の天井は、差し詰め杉柾と來るところを、煤竹を用ひた椽天井として、漆喰塗りとしたのも、洋手和工の趣きを味はれた。

何んでもないような事ではあるが、玄關の式臺左手の階段裏を利用して、——いや寧ろ活用して、花卉類の一鉢でも置けるようにしたのは、訪ふ人達に與

へる柔い明るい感じを想はれた。

次いで、わたしは玄關を「ホール」へ上つた。して、其處から各部屋への聯絡を考へてみた。なる程、ホールそのものは、各室への通路を要扼してゐるポイントとして此處では、それが、一種の放射線的に各室への聯絡を有つてゐるから、何れの部屋へも、此處から直接に通じて少しも他の部屋への通路を冒さないように出來てゐるのは、必ずしも創意的なものではあるまいが、その咄く取りこなした所に、設計者の腕を稱へずばなるまい。

ホールを直ちに右手の部屋に這入つた。此處は書齋であり、接客室であり、そして主人の居間である。全然に椅子式の部屋になつてゐるが、ソファーに倚つて、凝ッと其處ら邊りを見廻してゐる自分は、克明に西洋式な手法の線が現はれてゐる裡に、何んとなく、日本座敷に居るような氣持をした。例へば、壁附煖爐（マンテルピース）をあしらつて、例の床違ひ棚の氣分を充分に出したる、スティンド硝子や椅子ソファーなどの模樣を、特に日本趣味なものを擇びたる壁の色合ひから、用具の色彩さては、椅子や小卓のデザインまで、その一つ〳〵に日本式な調子を充分に出して、それが、斯の部屋全體の諧調を拵へてゐるから、奈何にも苦心の程を肯かれた。要するに、凡てが單純なデザインだが、そこにH本的な簡雅さを充分に偲ばせる。斯の部屋の木材料は多く米松を用ひられてゐるが、



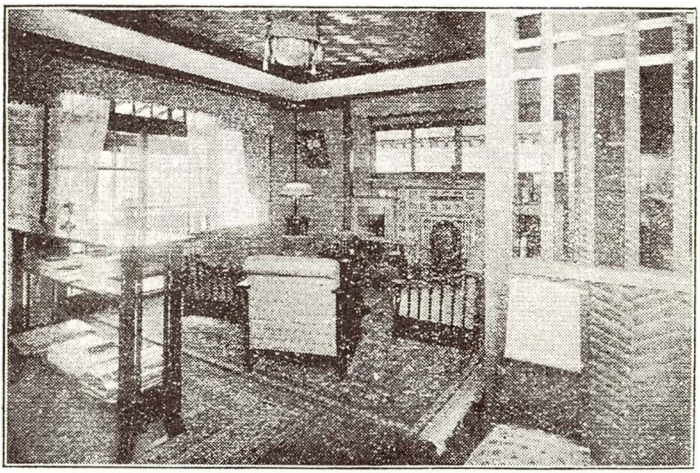
玄關

それを、塗料で咄く美化せしめた手法は面白い。

斯の居間に、差し詰め日本座敷の椽側といふところを、例のヴェランダにして、今は、その周圍を硝子戸で、サンルームになつてゐるのは思ひ附きである。

主人の居間に隣りて、八疊程の純日本座敷。是れは、主婦室であるそうだが、過渡時代の現代としては、斯うした保守的なものも、一つや二つは拵へて置く必要がある。

主婦室に續いて、此處も八疊ばかりの子供室である。作り附けの寢室と、隣りの主婦室用押入れを半分程子供室のそれに取り、中を二つに區劃して、右手を洋服掛け、左を用具入れとしたる、その他、押入戸などの框を塗りて汚れを見せないように



居間）兼（書齋）兼（接客室

したる、床をコルク張りにして、踏み心地を柔かにしたる抔、此處にも細かい用意を窺はれた。

轉じて、食堂を覽る。簡素なものではあるが、食堂の片側即ち廊下敷に當る處を一面の土壇として、それに、盆栽などを陳列する樣に設へたのも趣考である。食堂と隣れる臺所の間仕切りに、小さい引違への硝子戸を設けて、そこから配膳室との聯絡を取つたのは簡便でよい。

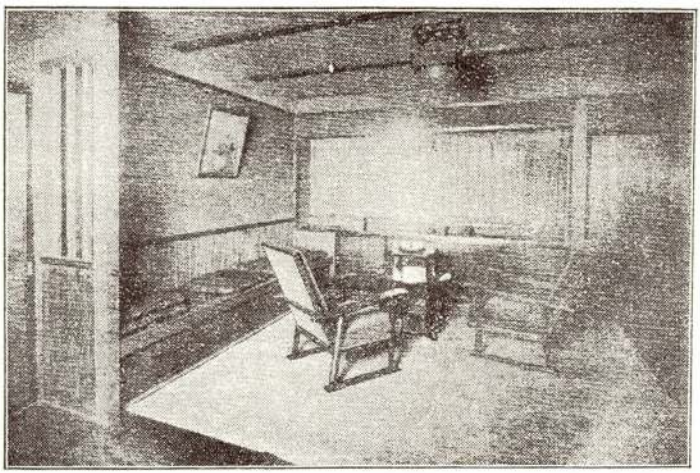
内玄關に廻つて見た。其處からは、直ちに女中部屋、臺所、浴室、そして、二階のホールへ聯絡してゐる。浴室に連る化粧室の「姿見」を取り附けにして、それを抽き放けば、裏が小棚になつて、そこに化粧などを容れる樣になつてゐるのも、細かい注

意である。

今度は二階へ上つて見る。

二階は階段室を上れば直ちにホールになつて、此處には日本趣味な氣分を充分に出したデザインになつてゐる椅子や、テーブル抔を設らへて、手輕な應接間とも成り、その隣りに續く日本間で何かを催した節、スモーキングルームにも用ひられる、といつた趣考。斯のホールの左側を一尺二三寸許り床を擧げ、それにクッションでも用ひてソファーを利かしたのは面白い。

ホールの隣のは八疊二室の純日本座敷。聞けば主人が謠曲や能樂に餘程な趣味を有つてゐられる關係から、特に斯敷うした日本座を設けられたのであるそうな。斯の座敷の椽側を廣く



二階ホール

取りて、それをヴエランダ代りに用ひられるのも創意的である。

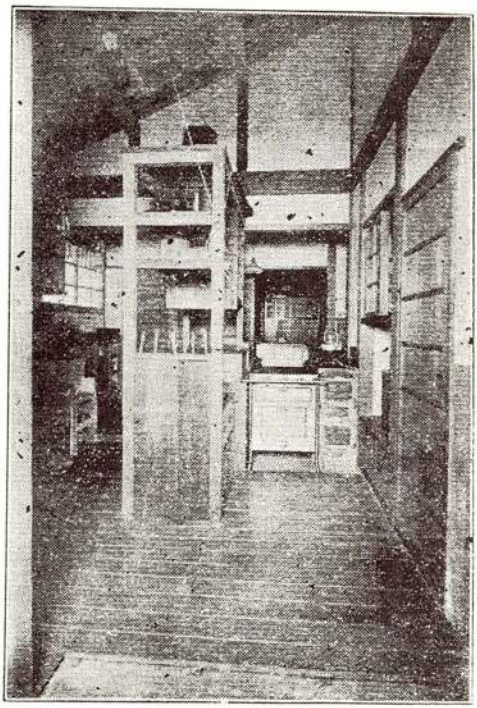
一つ〳〵に就いて紹介すべき多くのものがあるが、それらの統一に於て、構造全體の恰好に於て設計者の基調とでも云ふべき日本趣味を洋式の手法を以て表現した、といふ處に、斯の建築の成効であることを容さねばならぬ。

聞けば、斯の家の設計から施工の監督、一つ〳〵の家具のデザインから、庭園の構築に至るまで、現住友總本店工作部建築課の小川安一郎氏が、部長や技師長から〇差圖を受けて擔任されたので、謂はば凡てを一人で纏められたのであるそうな。斯の建築に奈何にも一貫したる。そう聞かば、そして凡てに聯絡とゞしツくりとした諧調を有つて

ある氣分を充分に看取されたのは、左こそと肯かれる。階上三十坪、階下六十餘坪延九十餘坪の建築として、是れだけの纏つたものは、先づ成効と謂つて可い。

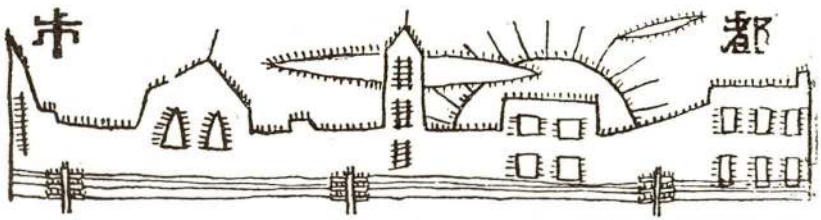
因に同建築工事請負は、日本建築協會の會員岡本新次郎君の犧牲的に努力せられたとの事である。

終りに、わたしは斯うした試みや創作が隨所に起りて、日本現代の家屋の樣式が、あゝした混沌たる周圍氣を成してゐる中を關いて、そこに、安良したる何ものかゞ出來上るように願はしい。それには、單り建築の專門家許りでなく素人の巧緻な考へをも自由に發揮させたい。



臺所

冬近き雨や無檀の郡に入る



都市計畫の根本的改造

——市街地建築物法の研究——

田中清志

A「やあ！相變らず閑散らしいね」

B「なあに、これでも閑中忙ありだよ、まあ掛け給へ」

A「時に近頃都市計畫の根本改造なんてことが問題にされてるやうだが何だか今度の震災に泡食つたやうで見苦しいこと夥しいね」

B「強がちそうでもないよ、當然來べきものが機會を捕へたまでさ」

A「ぢやあ君は錚々たる大家が百年の長計だと豪語して樹立した彼の計畫が、一朝にして覆へされるのを當然の歸結として是認するんだね、とすればそれは僕の持論の、都市計畫も現狀のやうでは其將來にまで健全なる發達すべく無力であると言ふことを肯定する譯で、ゆくりなくも茲に白旗を揭げたと言ふものかね」

B「まあ待ち給へ、僕の言ふ都市計畫の改造は既定計畫の改廢のみに就てぢやないんだよ、苟にも斯道の權威が攻究立案し、然も立派な審議を經て決定した計畫が、今度の——我國土としては當然あり得る——地震位で一片の反古となつて耐るものか、かう言へば君は、でも彼等は憶面もなく自家の無知と無能を標白してるぢやないかと言ふだらふが、あれは計畫そのものゝ改造ではなく、既定計畫若

くは既定計畫たるべき筈の施設に對する、實施順序の變更と見るべきで、さう問題視するでもないんだ、それよりも僕は正しい民意に立脚して其現實化を迅速ならしめ容易ならしむべき使命を有する根本法規の改革をこそ問題として居る、何分我國の都市計畫關係法令は、勿忙の裡に立案したもので、實に杜撰極まるものなんだ、よし地震なくとも改革を要して居たので、僕が當然來べきものと言ふのは此事だよ」

A「なるほど」

B「法令の不完全は夙に君も呼號して居たぢやないか、尤も僕とは違ふ立場に於てだが、どうだこゝらで一つ妥協して其改造の研究でもやらふぢやないか」

A「まあ御免を蒙らふ、僕には法規等問題ぢやないんだ、元來都市計畫の生ひ立ちに大きい疑惑を持つて居るんだから。と言ふのは例の參政權問題だの勞働問題だのと世間に所謂危險思想が渦巻いて居た當時、爲政者が智識階級を少しでもそうした叫びから奪ひ、僅かをでも離散させやうと謀んで芽生えたものが都市計畫だと解釋して居り、當局の無誠意を以て更に之を明確に認識させられたんだ、從て其法令が杜撰であることは突差の間の泥繩的立法として、僕の論據を固める材料とこそなれ、改造等無益の業だよ、今更らになつて資本家擁護の旗振りも氣が利かんからね、だが君の議論は大いに聽くよ、贊否は兎に角として」

B「君の曲論にも困るね、都市計畫が極端に實利主義的產業政策を標的として居た時代は、君の言ふ如く資本主本に偏して居たよ、然しそれは都市の美化壯麗を唯一の目的ででもあるかに取扱はれた時代と共に最早歷史上の一節となつて居るよ今日の顯著に民衆化した或は社會政策的とでも言ふべき都市計畫をまでそんな風に見ることは君の識見にも關するよ、僕は度々これを言つてるのにまださうした錯誤に陷つてるとは、病も膏肓に入れりだね」

A「嫌に逆襲するね、それに就いては言ひたいこともあるが今日は止して君の法視の改革なるものを拜聽せう」

B「無論話すよ、第一僕は都市が國家の一大機關であり一大部分であつて、其盛衰が一國の存亡に關するものであることは是認する、從つて其健全なる發達を助長すべき都市計畫を國家的事業として遂行せうことをも否定するものではない、然し其計畫の內容や過程をまで劃一的に國法で統一することには其何故なるかを判斷に苦しむ　等しく都市計畫とは言ひながら其要望必らずしも同一ではあり得ない、尤も都市計畫法は大いに此裕りを持つて居る、僕の言ふのは之と共に働いて實を擧ぐべき市街地建築物に就いてだが……」

A「都市の建築法に國家的立法の形式を採用し居る國が外にもあるかね」

B「寡聞にして僕の知る範圍では獨り我國のみのやうだね、尤も一般的建築法令例へば鐵筋コンクリート構造に關する規定の如きはないでもないが我市街地建築物法とは大なる經庭がある」

A　そうだらふ、由來建築なるものは風土に立脚し其支配下に發達して居るのだもの、此不可侵の歷史を無視するやうな暴は凡人の爲し得ぬ所だらふね」

B「そこだ僕の言ふのは、市街地建築物法も外國の市條例さまでは行かずとも、せめて國法は本法丈けに止めて地方行政廳の權限を權張すべきだと考へるのだ」

A「なあんだつまらない、それぢや省令の規則程度を直ちに府縣令に委せよと言ふ丈けなのか、大山鳴動鼠一匹だね」

B「それ丈けぢやない、これは先づ概論でこれから主題の法規改革問題に這入るんだ、抑々市街地建築物法の立案者は地震に就いて幾らかでも考慮して見たらうか、若し考へたとしたなら……」

A「としたなら責を負ふて……　とでも言ふのかね、然し外國の建築法令で地震を考へに容れたものがあるかね」

B「あるとも（然し澤山にはない）伊太利のイスキヤ島建築條例を見給へ、一八九一年六月一日勅令で以て一八八三年七月二十日の震災に於て損害を被つたイスキヤ島諸郡に施行したもので、其第一條乃至第八條は一般的の耐震構造に關して規

定し、第九條には「雜沓の中心附近なるがため又は地質の關係上或は大傾斜の故を以て、震災の際に頗る危險の虞ある地區は之を危險區域となす」ことを規定して第十條で其區域を指示し、更に第十一條で危險區域内に於ける建築物構造の制限を規定して居る」

B「例の桑港邊りにもあるかね」

A「特に地震に對してはないやうだが、一般に米國の諸都市では地域制（Zoning）が頗る徹底して居て、我國のやうな用途地域（Use district）以外に面積地域（Area district）及高度地域（Hight district）なるものを設定して、間接に地震に對する備へを爲して居る、又そうした規定を持たぬ歐洲都市では建築物の絶體高の最大限が皆低い、例へば巴里が六十六呎、伯林、ドレスデンは七十二呎六、羅馬は七十九呎二、倫敦は八十呎、維納、ブダペストは八十二呎五の如きにね、上海でも八十五呎だ」

A「ぢやあ我國の最高限百尺はどこから來たんだらふ」

B「多分當時の既存建築物からでも割出したんだらふよ」

A「まてよ、然も法令には『但シ建築物の周圍ニ廣濶ナル公園、廣場、道路其ノ他ノ空地アル場合ニ於テ行政官廳交通上、衛生上及保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラズ』なんて時と場合に依つてはまだまだ高くでも建てさせる所存らしいぞ險呑々々」

B「それは獨り絶體高許りでなく、木造家屋の最高限五十尺の如きも紐育の四十呎、市俄古、ボストンの四十五呎なんかに比較すれば低い方ではないが、今日の進歩した建築術は——經濟をさえ顧慮せぬなら——地質の良否に拘らず之を可能とすることそうだから別に恐れるには當るまい、尤も基礎に關する規定は一般構造の規定に對し甚しく閑却されて居るよ」

A「基礎の構造は地質に依つて異り、他のやうに一律には行かぬから明確な規定は出來まい、でも外國にはあるとでも言ふのかね」

B「他にもあらふが紐育市建築條例の第十二章

は根伐及基礎に關する規定で、一九一五年九月二十二日から實施されて居る位だから絶體に出來ないこともなからふ、兎に角我國で地域の制を見逃したことは餘りに暴で是非改訂されたいと思ふねA「其高度地域なるものを掻い摘んで聞かして貰ひたいが……」

B「高度地域と言ふのは都市を地勢、地質、地價等に依つて數種に區分し、夫々そこに對する建築物の絶體高を制限し、他の用途、面積の地域制と共に都市の保安、衞生經濟に備へる施設で、一九一六年七月始めて紐育市に制定され、其後最近（一九二二年）末迄に合衆國に於ける百十都市に採用されて居る（其内容は Engineering News Record に出て居た Mary T. Voorheesの Zoning Progress in the United States 及 Miss Voorhees の City Zoning Adpted by 110 Cities に就いて見給へ）それで米國では此高度と面積、用途の三割限を夫々個々に各地區の特有性に適應すべく設定することを以て完全なる地域制の活現と稱して居る。其二三を一覽表にしたものがこれだ（安藤坦氏作製『北米各都市ニ於ケル地域制』より）

都市名	用途地域	高度地域	面積地域
クリーブランド	I、住居地域 1_a 1_b アパートメント宅	H_1 三十五呎 A_1	一家族に付 五、〇〇〇平方呎 餘地 三〇%
	II、商業地域 2_a 小賣商業 2_b 商業及小工業	H_2 五十呎 A_2	同 二、五〇〇 五〇
	III、工業地域 3_a 大工業 3_b 半特種工業 3_c 特種工業	H_3 七十五呎 A_3	同 一、二五〇 六〇
		H_4 百呎 A_1	同 六二五 六〇
		H_5 百五十呎 A_5	同 三一三 一
		H_6 二百呎	

紐育	住居地域	a 街路幅に對し	1倍	A
	商業地域	b 同	1¼	B
	無制限地域	c 同	1½	C
	不定地域	d 同	2	D
		e 同	2½	E
ワシントン	住居地域	a 四十五呎	四〇%	A 中間敷地
	第一商業地域	b 五十五呎	六〇%	B 同角地
	第二商業地域	c 八十五呎	同	C 同
	工業地域	d 百呎	同	D 同
セントルイ	第一住居地域	a 四十五呎	八〇%	A 中間敷地
	第二住居地域	b 六十五呎	六〇%	B 同角地
	商業地域	c 八十五呎	同	C 同
	工業地域	d 百二十呎	同	D 同
	無制限地域	e 百四十呎	同	
		f 百五十呎		

備考　用途地域｝土地の使用を制限す
高度地域｝建物の絶體高を制限す
面積地域｝敷地内に餘すべき空地の割合を制限す

我國のやうに面積や高さが用途地域に從屬的關係を持つ地域制は、獨逸都市の採用せる制度であるがそれはアルトナ市（一八八四年制定）フランクフルト市（一八九一年制定）の何れにしても今日では歴史的價値を止める丈けなんだからね、然も地震なんかてんでない國と來てるよ」

A「然し今度のやうな震災など平生想像だに着かんからね、無理もないよ」

B「そうだ未だ遭遇したことのない歐洲大陸邊りだつたね」

A「手嚴しく皮肉る、毎もと主客轉倒の感ありだね……それで絶體高は兎に角高度地域を設定し、即ち地域制を米國流に徹底させよと言ふのだな、——基礎に關する規定をも設け——」

B「面積地域をも含めてね、然し用途地域も現在の住、商、工の三分類で滿足せず、セントルイの五分類位に迄分割したいなあ」

A「僕は地域制なんか今日の社會制度から根本的に反對だ、個人的には甚しく所有權の完全な行使を侵害するし、國家的には一朝事ある時都市の破滅を誘致すると思ふ、戰時の襲撃はさて置いても今度のやうな災害時に種々の機關が適當に散在して居ればこそ存立し得るが完全に地域制が成立して居たなら、復興は六箇しいよ、或は工業機關の絶滅となり若くは商業機能の破滅となつてね」

B「都市分營論者式の地域制だつたらね……」

A「處で君の法規改革は地域制の徹底とのみ解して好いかね」

B「兎に角火災に對する法文は防火地區の制があり特殊建築物の耐火構造規則があり屋上制限があり又防火壁　煖爐、煙突等（準耐火構造等考へものであるし又窓出入口に防火戸取付の制限は徹底せぬが）幾らか考慮されて居るが、震災に對するものとして別に規定のないのは片手落ちと思ふ殊に鐵筋コンクリート構造の如きに仕樣書然と使用材料から配合迄記載して置きながら、石造、煉瓦造の組積用モルタルを只セメント入と丈けしてある等再考の餘地があると思ふ、然も其絶體高を六十五尺まで認めて居るんだからね」

A「今度の慘禍は地震を導火線とはするが殆ど火災によるらしいよ」

B「餘り今迄洋風建築の模倣と移植に急で木造建築の研究に怠慢だつたからだよ、曾て震災豫防調査會が經濟的耐震的建築材料として推賞した木造も倒壞して火を發したんだらふ」

A「木造が腐朽して倒れ燃燒するに不思議はあるまい」

B「腐朽は施工の方法と藥品で或る程度迄防止

出來る、倒壞せねば發火は多少免れやう、尤もそれは火氣取扱場所に對する研究と規定に俟たねばならぬが……　もう完全な防火塗料の如きも發明されて居て好い時分だよ」

A「でも類燒や放火には何とも出來ぬさい」

B「如何に强健な身體の持主もピストルの闇討ちには要はんよ」

A「やがて十二時だお暇せう……形勢不利と見たねとでも言へ給へ。さよなら。（十一月七日夜稿）

廣い空一面
灰色の雲は、蒼ざめて
冬を　さまよふ。
ひよわな赤子の目の如き蒼空は
寂しい地手近く
うるみがちにのぞいてゐる。



「太陽の町」から回教寺院への巡禮

——埃及旅行記——（畢）

工學博士　八戸成蟲樓

十月二十日　（金曜、好晴）

今朝またクック社へ行つて、ベニ・ハサンよりファイレーに到るナイル沿岸の古跡觀覽券を買つたところ、來年六月三十日迄有効の切符で、價百四十八ピアスタアであつた、即ちざつと我十四圓八十錢に當る、二つ折赤表紙の無賃乘車券の樣なもので、隨分に高い、成るべくなら通用期間は半ヶ月か一ケ月位でいゝから、もつと安いものはないかときいてみたが、そんな都合のいゝのはお生憎さまださうで、仕方なしに夫れにした。

夫れから電車で停車場へ行き Matâriyeh 驛迄の切符を買つた、目的は開路市を距る事遠からぬヘリオポリス（Heliopolis）へ Obelisk（方尖柱）を見に行くのである。幸ひに餘り待つ事なく汽車は出で間もなくマタリエ驛着、改札口を出ると馬車や驢馬をうるさく勸めたが、近いところに乘物は無駄

だから一切知らん顔で徒歩した。

ヘリオポリスは埃及に於ける最古の都の一として知られ、「太陽の町」を意味し、埃及人はOnと


SERVICE DES ANTIQUITÉS.

No 2805 ٢٨٠٥ نمرة

Carte délivrée le 20/10/22

à M. E. Amanuma.

lui donnant droit de visiter jusqu'au 30 juin 1923. tous les monuments fermés ou enclos de la Haute-Egypte.

Prix L.E. 1,200 (Mille vingt Piastres Egyptiennes).

NOTA. Le produit de la vente des cartes est consacré à la conservation des monuments de la Haute-Egypte.

Le Directeur Général

AVIS.

Cette carte est personnelle; les noms des visiteurs doivent y être inscrits lisiblement; au cas où cette formalité ne serait pas remplie l'entrée des monuments serait refusée.

MM. les visiteurs sont priés de ne remettre cette carte à aucune autre personne, dès qu'ils n'en auront plus besoin, mais de la détruire afin de prévenir toute fraude.

En cas de perte, le prix de la carte ne sera pas remboursé.

This ticket is personal and non-transferable. It must bear the name of the holder legibly written, otherwise access to the monuments will be refused.

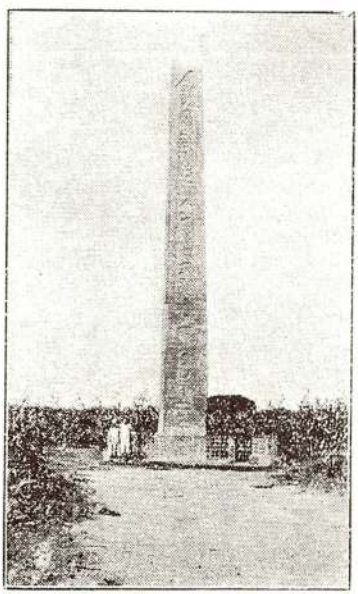
It is requested that visitors to the monuments will not hand over this ticket to any third person, but will, as soon as it is no longer needed, destroy it; this is to prevent fraud.

Cards will not be refunded if card is lost.

ナイル沿岸古蹟觀覽券

いつてゐたさうである、此所には鷹頭の Re-Hara Hite と人頭の Atum とを祭つた立派な殿堂があつたが、今は唯一基の赤花崗岩方尖柱に古へを偲ふのみ。

此方尖柱は Usesortis の建てたもので、いふ迄もなく元は二本あつたが、一本は第十二世紀迄建つて居たが今は亡く、これが唯一本漸く殘つたのださうである。高さ六十六呎四方に家形文字を刻す。上部兜巾形のところ及び象形文字の頭字たる鷹の形は、當初金屬を以て覆はれてゐたが、今は亡失してしまつた。


ヘリオポリスの玉冕泰斯中王朝に建てる方尖柱

折から天晴れ一點の雲なく、周圍は玉蜀黍の生ひ茂れる耕地で、水磨きせる大方尖柱が強烈なる日光を反射して特立せると、此地に獨特なる四圍の景趣とは、到底他では觀能はざる所である。といつても、此れは敢て方尖柱が珍らしいのではない、方尖柱丈けなら紐育でも倫敦でも巴里でも、殊に羅馬に於いては殆んど總ての廣場に於いてみられる。併し斯樣な所に於いてゞは、四周の地理的氣候的其他の條件が伴はぬから駄目で、恰もゴシツ の大伽藍を我國に建て、法隆寺を紐育に移した樣に、物に變りはないが、かうなると一種の骨董品として不自然極る狀態に於いてみるのだから、一の殘骸に過ぎぬので、眞味は半減されて了ふのである。冬期咫尺を辨せざる濃霧中に建てる Cleopatra's Needle を考へては、たゞ悲痛の感を深くするのみで、埃及氣分なんか到底起り得ないのである。

元來た途に引返すと、そこに半ば破損した水車があつた、灌漑用水を井戸より汲み上ぐる爲めのもので、原始的機械仕掛が一寸面白いから寫眞を撮らうとしたら、過ぎ畑の草取をしてゐた農婦二人、些少の金を惠まれれば命のまゝ撮影さるゝも可なりと案内人を介して申出た。此時案内人は Peasant women と言はずに Ladies といつた。埃及には農婦なんて言葉はないのかと思つた、併し例へ此等が Princess 達であらうとも、最早種板の餘裕がないから折角だが斷つて早速マタリエ村に戻り聖母及び耶蘇が曾て休憩せりとの傳說あり埃及無花樹を一見して驛に引返し、折柄着せる上り列車に投じて開路へ戻つた。

驛前からまた直に電車でアクベルハドラ迄、こゝからバスで眞東に、昨日の通りを突き當り、下車して復例の高い所へ登つて開路市の眞晝の景色を見下ろした。書き忘れてゐたが此所は風車丘（Windmill Hill）と呼ばれ、其頂界線の南端に近い邊を物見臺（Point devue）といつてゐる、今日もこの物見臺へ登つたのであつた。

折角こゝ迄來たのだし、此邊に料理屋はなし、晝食は後廻しとして、せめて Boursbey 廟の外側丈けでも近くで見度く思つたから、物見臺を下り

てカリフ墓の部落を通り抜けて目的の廟へ向つた其途中にある澤山の墓は、何れも葱花屋根がかゝつてゐるので、遠くでは何度もみたが、近くでは初めてゞあるし、夫れが大好物の墓標であるところから、田舍者が銀座通（註に曰く震災以前を云ふ）淺草の中見世（註、前同斷）を見物する如く、右顧左眄、寫眞を撮り乍ら且つ頭へ詰め込み乍ら歩くので　進みは極めて遲々たるものであつたが、遂に目的の廟に行きて内部をみ　序に此ソルタンの墓をも一見し得たのであつた。

まだ此カリフ墓の一廓には見學せざるべからざるものが澤山にあるが、本日は午後を休養と定めたので、これでやめて同じ途を逆に戻り、風車丘の脚なるバスの終點より、半ピ即ち五ミリームを奮發してアタベルハドラへ向ふ途中　丁度昨日婚禮の行列を見た邊で、反對に葬列を見た、棺はむき出しの寢棺で、綺麗な切地で上を覆ひ、夫れを人夫が擔いで行く、其後から坊さんや會葬者が行列を作つて邊り歩くのは、恰も我國の舊式葬列の通りであるが、殊に目立つたのは列の最後について、土人の女七八名が荷車の樣なものへ乘つて泣き乍ら行くのであつた。所謂泣き女でもあらうが會葬者が皆相當の服裝をしてゐるのに、此等の女共は盲縞の土人服を纏ひ、態と泣き顔を見せ乍ら行くのだから、甚だ失禮な言辭で恐縮だが、恰も江戸時代末期の燒きそこなひの鬼瓦を見る樣であつた。

今日のバスの相客は界隈の下層民の女が多かつた、頭から黒布を冠り全身を覆ひ、顔は僅に兩眼と鼻が半分位出てゐる丈けで、鼻の中心に沿ひ眉間の邊迄、數節を有する金色燦爛たる圓筒形の裝飾金具をあてがひ、鼻の先から顔半分黒色の網を長く下げてゐる、だから鼻の高低大小精粗等は到底判らぬ、だから鼻の比較的高からざる婦人に取つては至極便利な服裝である。印度國ベシャワールでみた婦人は、頭から踝迄純白の布を冠り、兩眼のところ丈けは粗い網になつてゐた。だから全然どこも見えぬ。斯樣な風俗の婦人二人、夕暮の薄暗い人通りの少ない淋しい町を歩いてゐたが、服裝が服裝だから、まるで幽靈の樣で悽愴の氣人

に迫るやうに思つたが、白でも黒でも外觀頗る上品である。

婦人は決して肌を出さぬ、我國の或る種の女子の如き不作法は常夏の埃及國に於いてはみる事が出來ぬ、斯樣な上品に見える婦人が、大概跣足でゐるのは甚だ異樣な感がする、其跣足の婦人達がバス內に於ける喧しさはお話にならぬ、三人よれば姦しいと言はれるのが、十人以上も集つたのだから、其賑な事例ふるにものなく、こつちが婦人客と思つて成るべく遠慮すると、いゝ氣になつてのさばり出す、所詮埃及女は默つて立たしておくか又は繪にかいておくに限る。

バス內では男が割合におとなしいが、亂暴なのになると車の橫に入口があるのに、態と後ろの窓から入つて來る、車掌は見ても夫れを制止せぬ、だからいゝ氣になつて斯樣な亂暴を働くのだ。嘗てある年の暮の卅日、夜行列車で九州へ向つた時の事であつた、汽車は非常に澤山の乘客で、あとから乘つた客は座席なき爲め、通路に荷物を置いて其上に腰を掛けてゐた始末であつた、こんな風で汽車が神戸驛に着した時、若い男が二等車の窓から飛び込んで來たのを目擊したのであつた、本人の無作法はいふ迄もない事ながら、あの混雜では、あゝでもしなければ到底乘る事も何も出來ないから、其責の一半は、乘れぬ汽車を運轉せしめ且つ無制限に乘車切符を發賣した鐵道院の運輸課長が負ふべきものだと思つた事があつた。かゝる次第であるから人の事は言へた義理ではないが、今の場合は聊か此れと異り、充分入口から乘れるにも係らず窓から入つたのである、本人は勿論だが、夫れを默つてみてゐる車掌がけしからぬ、斯樣な風ではいつ迄たつても駄目である。ガタ馬車はバスとはいくらか構造が異なり、自然亂暴は働けぬが、客種はどつちも同じ位である。

電車は熱帶の事とて、車の兩側全長に沿ひて踏段があり、明け放して皆橫から乘る樣になつてゐる、「踏段に立つべからず」の揭示が出てゐるにも係らず、皆立つてゐる、夫れを巡査も車掌も知らん顏をしてゐる、だからいゝ氣になつてやる、ひどいのになると踏段へ腰をかけてたゞ乘をする。

停留中運轉中を問はず物賣が乘つて來て、鼻の先きへ商品を出して可なりうるさく勸める。煙草や新聞紙は便利でいゝが、菓子や果物等もある、其菓子を勤務中の車掌乃至便乘の巡査が撮み喰ひをする。そして勿論金を拂はぬ。多分役徳といふのだらう。米國に居た時ロス・アンゼルスからパサデナへ行つた事があつたが、其勤務中の電車の運轉手がバナナを食べ、續て麪包を頬張つたのを見た時、米利堅は行儀が悪い、我國にはこんなのはないと思つたのであつたが、開路電車の車掌は此れ以上である。果物や菓子の行商はまだいゝとして、最も奇抜であつたのは萬年筆賣であつた。「乘降は先づ降客を先きにせられ度し」の掲示も役に立たぬ、電車が停ると我勝ちに先を爭つての事、どこかの國の住民と同じである。

獨立をしたと大威張で、鼻息は頗る荒いが、首都には英國の兵營があり、英國旗が今でも飜つてゐる半開の埃及國も、歐洲の強國に戰爭で勝ち一等國に昇進したといふ日本國も、どうやら文明の程度は同じ位らしいので、八戸波蘭樓今日は大に悲觀せざるを得なかつた。

宿に近い安料理屋で晝食をしたら、給仕への心附迄入れて合計十九ピアスタアですんだ、當地では甚だ安價な方である、直に歸宿をしたがもう三時が過ぎてゐた。連日歸りが晩くなるから、夕食をすませ日記をつけるといつでも十時が過る、こんな風で入浴のひまもながつたが、今日は午後休養をしたから、相當にひまが出來、開路着後七日目で漸く湯に入れたのであつた。

十月二十一日　（土曜、好晴）

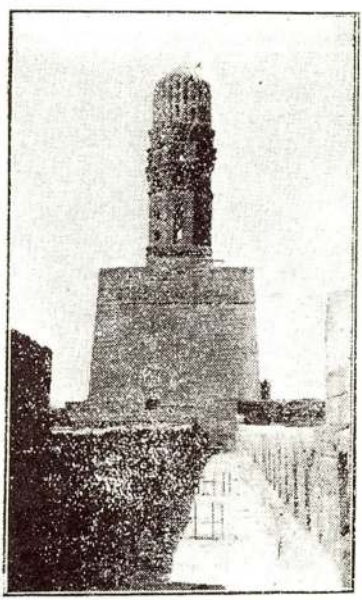
今朝三度クック社へ行つて埃貨金五十磅を引出し、他に所持の英貨五磅と白貨十一フランを埃貨に兩替をしたら、合計五十五磅三十五ピアスタアとなつた、明後日から田舍巡りをする爲めの準備である。

案内人のサラーは、今から古跡保存事務所へ各寺院の拜觀券を買ひに行かうといふ、一昨日此切符の事で同人と爭つたが、Office といつたのは此れらしい、成程夫れはさうかも知れぬと早速同意して直に出かけ切符八枚を買つたゝかう書くと恰

アンサリ寺は一四〇八年カイト・ベイ王の記錄所主事なるAbu Bekrがマメッユーク時代末期の小寺院に型を採つたものと言はれ、徹底的の修理を經たのであるが、壁や天井によく時代の裝飾が現はれて居り、彫刻を施したる說敎壇や出入口の唐戶や柱等皆注目に値す、小じんまりした氣のきいた寺である、本名は頗る長くAbu Bekr Mazhar el-Ansâri といふ、我國なら正に信貴山朝護孫子寺（大和）か金光明四天王護國寺（土佐）といふところ。

ハキム寺は此邊での最大な寺で、ナスール門に近く位置す、其特異なる小塔はよく遠方からの目標になる、西紀九九〇年イブン・ッルーン寺の規模によりカリフ El Aziz の創始するところで、一〇〇二より一〇一二に渡り、其子 El-Hâkim によりて完成せらる、故に Gâmi el-Hâkim（一に Hakem）といふ。一一六七年十字軍侵入の際耶蘇會堂として了つた、回敎寺を耶蘇敎の會堂にするなんか不都合かも知らぬが、こんな例は敢て珍らしくはない、例へば Fortuna Virilis の殿堂が Sta. Maria Egiziaca 寺になつた樣なものである。

一三〇三年の大地震で寺は大破したが、Beybars II. を修覆した、ところが佛人が開路市を占領するに及び、一七九八年にとう〳〵兵營にして了つた。兵營にはもつて來いで、此の位しつかりした大きな建物は、今では駄目だが十八世紀末なら立派な據點にもなつたらうし、まことに上分別であるけれども、また一方から考へると甚だ困つたことで、史蹟なんてものは全然兵隊さん達の頭には無いのだから助からぬ。これも世界各國共通の現象だから仕方がない。我國でも、筑紫の國も窓



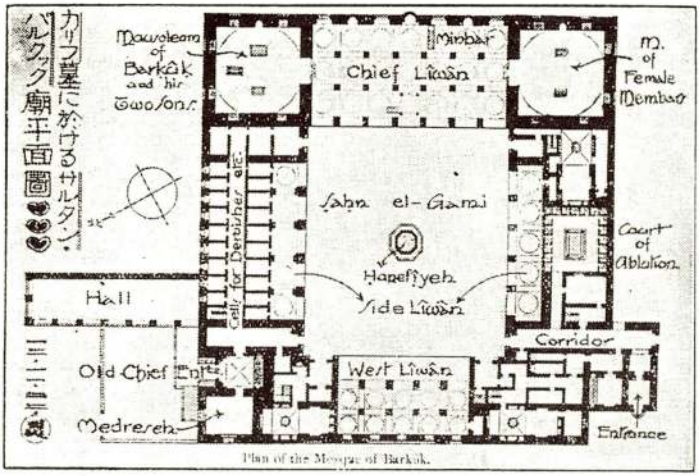
ハキム寺尖塔

口へ金を拂ひ引かへに切符を手に入れた樣であるが、中々さう簡單には行かぬ、先づ此の役所のある一室へ入ると机を控へた役人がゐる、其の役人の前へ行くと、先方から活字刷りの紙をくれる、其空處へ姓名●國籍●職業●旅行の目的等を記入する、さうすると其役人が夫れを受取り、一通り檢閲して給仕に渡す、受取つた給仕は夫れを持つて室外に消える、待つてゐる間に役人はいろ〳〵話をしかける、流石に英語はうまい、感心してきいてゐて三度に一度位いふ事が判つても判らなくても、そんな事は一切構はず yes, no, と一つ置きに返事をしながら、心中早く切符の來らん事を祈つてゐたら、其うち役人は私に暴夜語を話すかと問ふた。頭の悪い役人もあるものだ、暴夜語が出來る位ならヌビヤの土人なんか連れて歩くものか、「私は私が暴夜語を話せぬ事を甚だ哀むものである」といつたら、役人が何か言はうとした時先刻の給仕が切符を持つて入つて來た。矢張一ケ所四ピづつの八箇所合計三十二ピ、拜觀料は何處も同じと見える。皆で三四十分も無駄にしてしまつた。

外へ出ると時間の關係上電車では間に合はぬから、通りかゝりの空馬車を雇ひ Gâmi el-Mârdâni, el-Muaiyad, Muristân Kalâûn, el-Ansâri 及び el-Hâkim の五箇寺を一氣呵成にすませた。こんな見方で駄目なのはよく承知してゐるが、回教寺院の研究に來た次第でもなし、よしまた來た序に研究をするとしても、一々細部迄觀察してゐる暇は到底ないとすれば、概念を頭へ入れる丈けで滿足をせねばならぬのは當然であるからである。

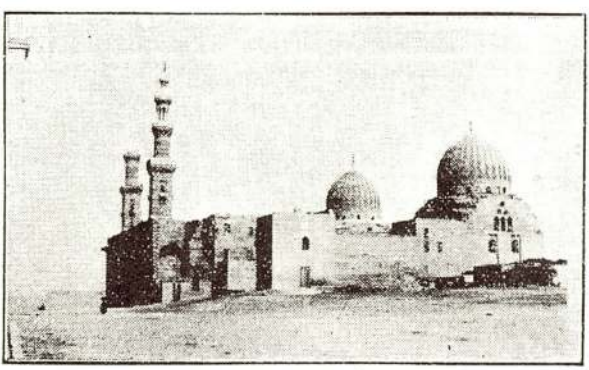
以上五箇寺の内、後の二つが特に面白かつた、殊にアンサリ寺は、大變に狹い露地裏の樣な所にあるので、いくら地圖を按じても到底一人では行けぬ、案内人のサラーですら、そんな名の寺は聞いた事がない、今迄一人も案内せぬから道がわからぬと言ひつゝ、數回そちこちで尋ね漸く行きついたのであつた、開路市の地圖は此邊になるともうかいてない、大體の廣い町は可なり精しいが、土人町の細い狹い曲つた所は略してある、一人で行く等は思ひもよらぬのである。

は建築家 Sherkis el-Halanbii の設計監督に成りしと傳へられたものので、一方には小尖塔二基後方即ち東側の兩端墓所上に大圓屋根を架せるが其平面は約二百四十呎平方で、廊といふよりは寧ろ Medresch（回敎の學校）に似てゐる。



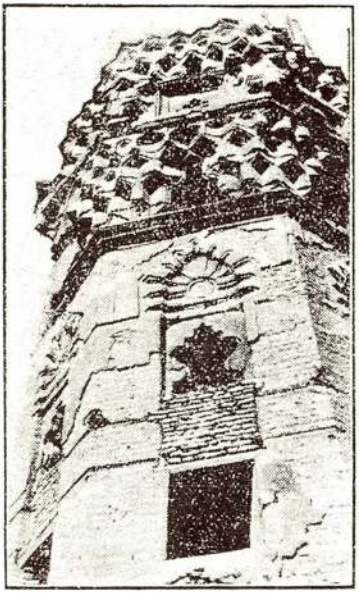
カリフ墓に於けるサルタン・バルクック廟平面圖
Plan of the Mosque of Barkûk.

話は少し脇道へ入るが、此メドレセーはいろいろな綴り方がある、Medrissa, Medressch, Madrasa, Madrasah 等で、何れも似てはゐるがかう澤山あつては困る、東洋の名は何故にかう異つた綴り方をするのか、今迄も時々あつたが、今度のこれは五つもあるのだからひどい。我東京も Tokio とも Tokyo とも綴つてあるやうだ。


カフフ墓に於けるバルクック王廟全景

銘さん連りにトカイオといふ、あれはトカイオぢやない、トウキヨウと讀むのだといつたら、だつて Tokyo と綴つてあるぢやないかといつた、尤も

造磐井の墓と傳説のある、石棺の前面が露出し其前に圓體石人の立つてゐる小高い古墳の周圍に、兵隊さんが演習に來て長い散兵壕を堀つて了つた今はまた埋めて了つたかも知らぬが、あのまゝで何百年かたつたら、其時分の考古學者や古墳學大家が、墳墓の周圍に溝がある理由なんて事を研究するかも知れぬ。



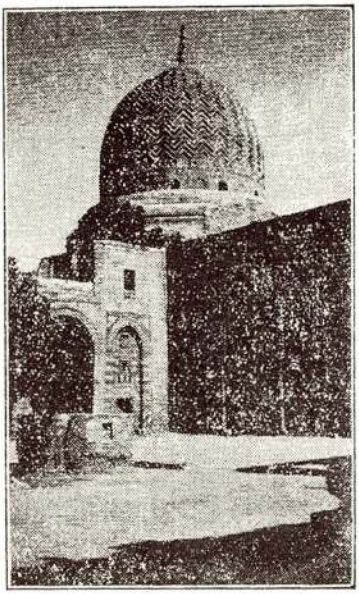
ハキム寺尖塔の胸部

寺は現在甚だ荒果てゝゐるが、殘存せる二基の尖塔は注目に値すべく、殊に其基部に於ける方形の部分が目につくが、此等は當初よりのものではなくて後の補加ださうな、私は二基のうち北方のをよく觀たが、中々に古風であり、其鐘乳軒等は中々うまく出來てゐた。

ハキム寺の見物をすませ el-Futûh 門を出て en-Nasr 門を右にみて、細かい粉の樣な土と砂——この砂は暴夜砂漠の一部だと思ふと大に興味がある——との漠々道を東に向つた。歐米人だと、こんな道には大分に辟易するのだが、我東洋君子國に「天の惠みで生れし」私は道は天氣のいゝ時は漠々で、雨が降るとお汁粉か乃至餡ころ餅になるものと心得てゐて、さういふ所で四十面を下げる迄暮したのだから、こんな道は平氣なもの、勢よく歩くとサラーはベーブメントのないこんな道はさぞ歩きにくいだらうといふ、いやなに何でもないさ、早くいつてみたいから、と答へたものゝ、暑くて汗をかいてゐる上に冷汗をかいて、襦袢はすつかりぬれて了つた、で愈よ歩を早め遂にカリフ墓に出て、バルクック廟とカイト・ベイ廟と二つみた、だから今日は七つ卒業した事になる。

バルクック廟(Sultan Barqûq 又は Barkûk)は、所謂カリフ墓の北端、一木一草なき荒地に建つ、廟

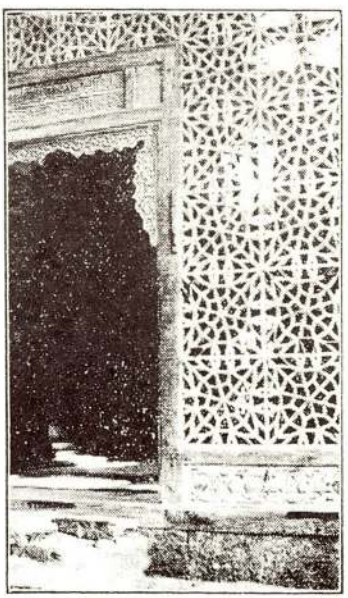
だと思つた。井田をIdaとかくが、異人はアイダと讀む、さうすると飯田はアイアイダで飯島はアイアイジャイマであらう。Tokyoとさへ綴つておけば間違はないのである、澤山の綴り方があつては第一字引を引く時困る。



バルクック廟中庭より東北の隅を見る正面に見ゆるはソルタンの墓所上の大圓屋根で左手の前に見ゆるは沐浴に當つて用ひし古井戸其左にタマリスク樹が半分計り見えゐる。

内部には大中庭あり、廣濶にしてたゞ其中央、二本のタマリスク樹の蔭に、殆んど壞れた沐浴用井戸があるが、勿論今は用ひず、他の部分は全部立派に修繕されてゐるのに、井戸斗りは其まゝになつてゐる。元は今東側聖殿前にある様な尖拱が四方を廻つてゐたのであらう。此東側聖殿前の尖拱は、イヴン・ツルーン寺程ではないが、兎に角華車な柱上に乘つてゐるから、どこかにゴシック建築の俤がある。

此東側聖殿は最も美にして、他の例に普通なる筒形穹窿（Barrel Vault）と異り、多くの小さき半球形の圓屋根より成る、其平面は三つの道路に分れ其一部にカイド・ベイ寄贈の說敎壇を置く。聖殿の南北兩端は即ち墓所にして、其北方なるものは、バルクック及び二人の小供 Farag Abd el-Aziz 南方のものは妃妾の墓で、其兩墓所の上に、



バルクック廟の妃妾墓入口の格子細工

暴佼建築としては最傑作の一たる大圓屋根を架す墓所入口の格子細工亦四圍とよく階調を保つてゐる。加ふるにかゝる格子細工は、開路に於ては稀にみる所で、他に一箇所あるのみであるといふ。

北方聖殿の後方には、澤山の僧房が並んでゐて三階をなしてゐる　往昔此所に僧侶居住し託鉢の傍ら修學をしたのであつたが、今は我國の各大寺に殘存せる僧坊と同じ運命に陷つてゐる。

カイト・ベイ廟は、バルクック廟の南方凡そ五町を距て、所謂カリフ墓部落の中央に在りて、附近廟墓中の最美なるもの、一四六三年の建立にかゝり、一八九八年の修理を經て今日に至る。美なる圓屋根、高さ百三十尺の細長なる尖塔、豐麗なる裝飾　階調を保てる各部の比例等、觀者をして飽かしめぬのである。こんな風だから、此廟は頗る有名で、開路市を訪ふ人士は、史蹟に趣味を有すると否とに係らず、少閑あれば必ず此廟を拜觀するのである。

歸途五度目でまた風車丘へ登つて景色を見た、最早開路市を退去する迄此所へは來ぬであらう、してみるとこれが最後である。高い處から開路市とカリフ墓とに別れを告げたのである。

風車丘を下つてまた例の五錢均一のバスへのつて町へ戻り、一昨日晝食をした聖ゼームス屋へ入つた、昨日の家は安くていいが、いくらよくても餘り美味でないから、今日はここにした、晝食をすましたら三時半であつた。先日來の寫眞の燒付をとりに行つたら、大概はよかつたが、フオスタート發掘の西洋油絞石と、メレルカ墓內の同人立像とが失敗に了つた、石の方はまた寫しに行けるが、墓の方は到底取返しのつかぬ失敗であつた。

最早今日も四時が過ぎたから、歸宿する事にした、夕食後番頭に明後月曜日朝旅行に出ると話したら、もう其事なら承知してゐますと言つた、多分へメダがいつたのだらう　へメダはどうも面白くないので、今朝クック社へ行つた時店員にきいてみたら　あれは多年案內人として勤務し、評判もよく當社でもよく知つてゐる　あれなら大丈夫間違はないといつた　これはかういふより仕方があるまい、今更何とも出來ぬ　あれは氣に喰はぬ

から代へてくれとも言ひかねたし、まあ大した事もあるまいとしておくより方法はない。

十月二十二日　（日曜、好晴）

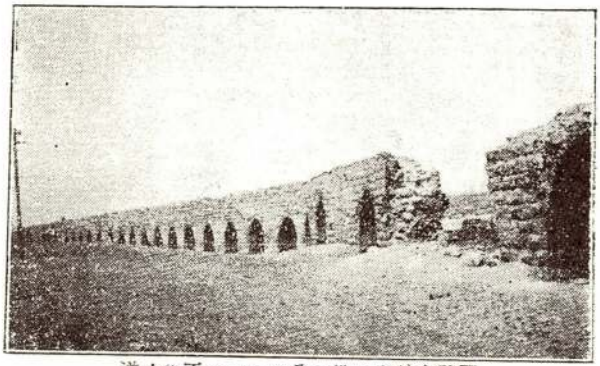
博物館行の豫定を變更して、カイト・ベイ寺とアマア寺とにきめた、斷つておくが、カイト・ベイ寺と昨日みたカイト・ベイ廟とは違ふ、此れは市の南端に在り、彼は市の東郊風車丘を隔てた墓堀と御坊との一部落なるカリフ墓の中央に位置してあるので、物も所在地も全く異るのである。

ここへ行くには、電車だと矢張サラヂンの廣場迄のるがいい、そして一度イブン・ツルーン寺へ出てから行くのであるらしく、昨日の道を其寺へ出た、然るにここから男を一人連れ出した、其理由をサラーにきいたら、寺をあけて貰ふ爲めに連れて行くのだと答へた、番人がむかうに居ないのかと又きくと、居ないからここから連れて行くのだといふ、訊いてみれば如何にも尤千萬である、併し彼等同志は土語で何やら語り合つてゐる、邪推するのではないが、サラーが途を知らぬ爲め案内人の案内人を雇つたらしい氣がしてならなかつた。

行く事五六町にしてカイト・ベイ寺の尖塔の前に出たが、寺は案の如く締切で誰れも居ぬ、かかる事もあらうと豫てから案内人に、だしぬけに行つても大丈夫かときいたのであつた、其都度大丈夫と答へながら此始末である。ツルーン寺から連れて來た男は矢張たゞの道案内であつたと見え、默つて立つてゐる、サラーをせめても要領を得ない、その男は鍵も勿論持つてゐず、全然開扉の能力がない、サラーの言つたうちで、「寺に番人が居ぬ」丈けが事實で、あとは全部出鱈目であつた

怒つてみても今更追附く話でなし、愚圖々々すればする丈け時間の空費になる、止むを得ぬからあきらめてアマア寺へ行く事にした、此寺は例のフオスタート廢墟の隣りである、今日は是が非でも西洋油絞石の寫眞も撮り實測もせねばならぬ。

カイト・ベイ寺から此所への道は、市の外廓に沿ひてぐるりと巡るので甚だ面白かつた、途中舊水道の下を通つた、この水道は今の城塞の脚に近く宮殿を建てたイブン・ツルーン王が、殿内へ引



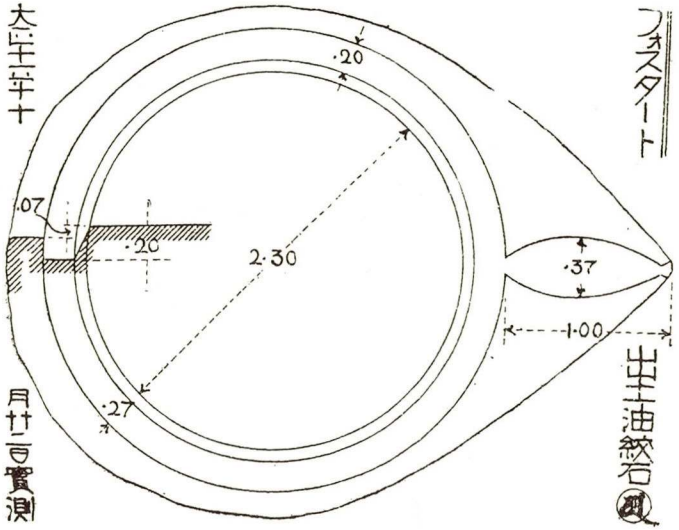
開路郭外市沿へるツルーン王の水道

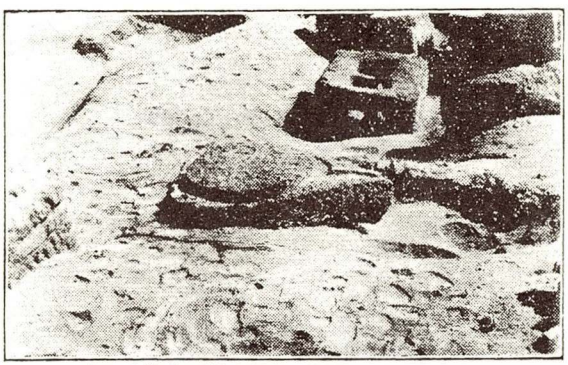
水する爲めに建設されたものと言はれてゐる。今は隨分にひどくなつてゐるが其昔しは大したもので、立派に Aqua Claudia の向ふを張る事が出來るのであるエミールは此水道が大自慢であつたが人民が大して稱讃しないので、大分に不平であつたさうな、其せいか知れぬが、其臣 Mohammed Ibn Abd el Hakem 閣下の直話にこんなのがある。

ある晩自分は家にゐたら、ツルーン王の奴隷が來て「御用有之即刻出頭すべし」といふので、驚いて馬に飛び乘り、件の奴隷の後について行つたが、行く先が分らぬから、「どこへ行くのか」ときいたら「エミールは砂漠に居られるからそこへ行く」といふ、これは大變、處刑されるに決つてゐる、「困つた事になつたお前御用の筋を知つてゐるか」と震へ聲できいてみたら、氣の毒に思つたのか「水道の事について御下問の際は可然お答へなさい」と敎へてくれた。で其まゝ驀地に進んで行くと、前方に松明の光りが見へ、馬上にツルーンの雄姿が水道の戸口の處に見えたから、自分は下馬して拜したが、王は知らぬ顏をして居られた、そこで私は「殿下、お召により大急馳せ參じましたので喉が乾いてたまりませぬ、高望水を一杯頂かせてくださいませ」といつたら、近習が早速水をくれたが、私は辭して「自分で勝手に頂きます」といつて、腹がハチ切れる程のんだあと、「殿下極樂の川から甘露水を頂いてすつかり乾きは止まりました、この無類の水道がありませばこそこんな冷い、甘い、澄んだ清い水が頂けました」といつたら、王御機嫌斜めならず「此者を下げい」と下知あつた。先刻の奴隷耳語して「うまく圖星を指しましたね」と。

水道の拱下を潛り、城塞上のモハメッド・アリー寺を常に左にみて進むと、此邊一圓にフオスタートの土を捨てたと見え、風車丘と同じ樣陶器の破片等澤山に落ちてゐる、かかる凹凸道を暫く歩くと漸くにして平地へ出る、眼界頓に開け前方遙にアマア寺の二尖塔をみる、即ち目的地へ來たのであつた。

先づ第一に油絞石の寫眞を撮つた、三度目正直



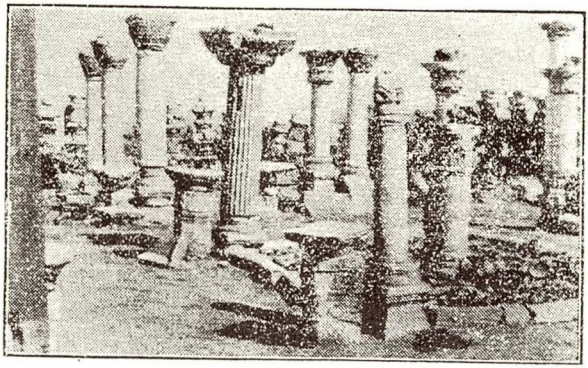


フォスタート發掘の所謂油絞石其後方の穿孔せし方形の石は(チモリ)

確かである、夫れから寸尺を測つたから、此所に圖示しておくが、いつかも書いた通り我國の此種の石造物と比較して甚だ面白く思つた。ここへ來たのもこれで三度目で自分では最後のつもりである、だから大分にここの寫眞をとつた。

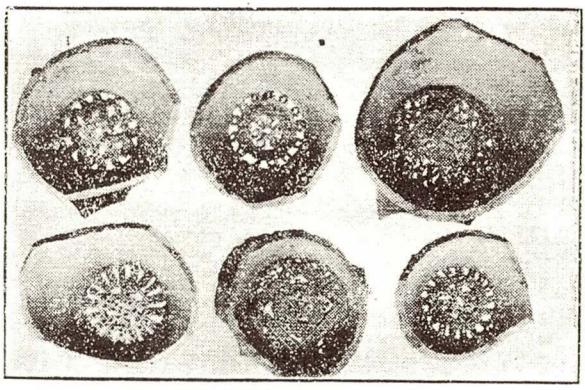
番人頭のアブダラとも言葉は通ぜぬが顔馴染になつたから別れる時銀貨數片を出して感謝の意を表したら、Goolah filter ——素燒の德利の口と身との間に作つた液體濾清器、寫眞參照——や陶器破片や飾漆喰の一部等を標本にといつてくれた。此等は非常に澤山發掘さるるので、上等品丈けは暴夜博物館へも

つて行つて陳列し、二三等品は現場で希望者に賣るのださうな。だからつまり私は買つた樣なものだが、たゞ其代金が番人頭の懐中へ入つた丈けの事である。

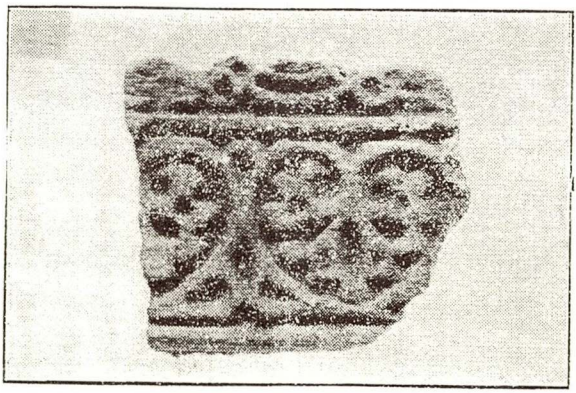


フオスタート發掘東羅馬式柱其後方風木鉢
な積んだ樣なのは何れも柱頭

次はアマア寺（Gâmi 'Amr ibn el-As）見物である。寺は創立以來水害、火災、地震等で何度も何度も破壞されたが、其都度再興されて今日に及んだので、埃及國中探しても此寺の樣に壞されたり建てられたりしたのは餘り他にないさうであるだから古いところ等は殆んど殘つて居らぬ、殘つて居らぬのに見物した動機は、段々縞の二基の尖塔が氣になつて目について、みたくてたまらなかつ

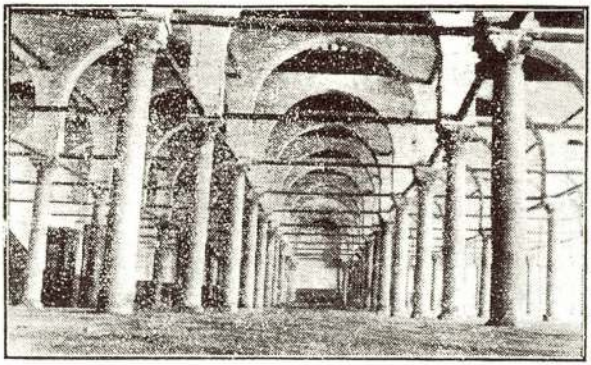


フオスタート出土ガラース水壺六種

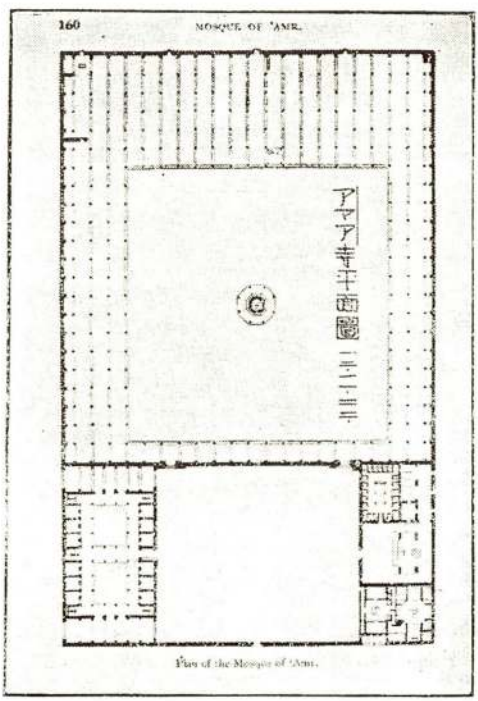


たからで、大部分は好奇心からである

内部はおそろしく廣い大中庭で、其中央には例により沐浴用井戸があつたが恰も奈良東大寺閼伽井屋内の井戸が若狹の國に通じてゐる様に此所の井戸はメッカの井戸に通じてゐると一般に信じられてゐる、してみると閼伽井屋の井戸より此方が兄さんだ。羅馬の近郊にある Quo Vadis 寺には、基督の幽靈の立つた足跡のある大理石盤がある我國だつて吉野山の吉水神社へ行けば辨慶



アマア寺聖殿内部



の力釘といつて、石へ辨慶が筆力を出して大鐵釘をさし込んだのがある、論より證據現物が殘つてゐるから確かだらう どうも此方が幽靈の足跡より自慢が出來ると思つてゐたのに、井戸では負けて了つた、距離を比較する迄もなく開路 メッカの方が大和と若狹との間より遠いから。

寺は元と僅に五十六尺に二百尺の細長なる一室で、煉瓦石を積み、漆喰も塗らず、屋根も低く、

尖塔もなく、甚だ簡單な建物で、西紀六四三年に Amr ibn al-'As（又は el-As）の建つるところ、六七三年擴張せられ、六八九年破却し、現在のものは殆んど八二七年 Abd-Allah ibn Tahir の再建に成つたものといふ。

回教徒は靈驗灼然な伽藍として今でも參詣が多い、我國でいへば先づ高龍神とか善女龍王とかの格で、雨を祈ると効驗頗る著しい、嘗て一八二五年から二八年にかけての大旱魃の際等には 回教徒、耶蘇教徒、猶太人等、皆なここへ參籠して雨を祈つたら、直に車軸を流す様な大雨が降つたといふからうそではあるまい。今では毎年五月九日から六月九日迄（Ramadan）の間の最後の金曜日に回教徒はここで祈禱をする事になつてゐる。

說教壇の前の鐵棚内に、灰色の大理石柱があるが、これはメッカから當地迄飛んで來たのださうな、我國にだつて飛梅といふのがある、人の建てた柱が飛んだより地面に生へてゐる梅の飛んだ方が奇蹟である、けれども距離からいふとあつちの方が遠い、併しこつちには米俵の一ぱい詰つた校倉が其まゝ飛んだ事さへあるから、これはこつちの方が勝ちだ。

歸りに宿の近くの大きな書店で、記念の爲め本を一冊買ひ五磅の札で釣をとつたら 其うちに二〇ピアスタアの銀貨があつた、其まま受取つて歸り晝食後宿の帳場で繪端書を買ひ、其銀貨を出したら番頭贋金だがどこで受取つた ときくから、あすこの大きな本屋といつたら、今日は日曜だが午後の三時には店がまた開くから其時返したらいいだらうといふ、成程よくみると少し變だ、大分間が抜けてゐてだらしがないが、相手は大書肆だしまさかと思つたのが間違の元であつた。

午後二時五十分サラーが來たから、八日分の案内料金並に若干の心附を與へ、尙明朝旅程に上るも來月三日の朝歸市する故、同日午前九時再び此旅宿に來るべく命じ、扨て先刻の贋金一件を話し試みに其銀貨を示して眞贋を鑑定せしめた所 彼は一見直に確實に贋造なる旨明言したので、私は萬一の用心に彼を連れて先刻の書肆へ赴き、往來に彼を待たせ置き、一人店頭に入ると幸ひ主人が

ゐたので、其銀貨を出し宿の番頭は賃金だといつて受取らぬから、他のと替へてくれといつたら主人は左樣な事はないが、替へませうと早速十ピの銀貨二枚出したので、助け船を呼ぶともなく無事目的を達したのであつた。開路は實に人の惡い所だ全く猶斷も隙もあつたものではないのである袋入の繪葉書を買つて數のあつた事はめつたにない所である。

× × × × ×

開路滯在九日間、先づはかくの如くに暮したのである、愈よ明朝內地旅行に出かけるが、これは續埃及遊記とでもして、來年一月から書く事にしやう。（大正十二年十一月二十四日稿了）

墨染の夕べの山をながむれば

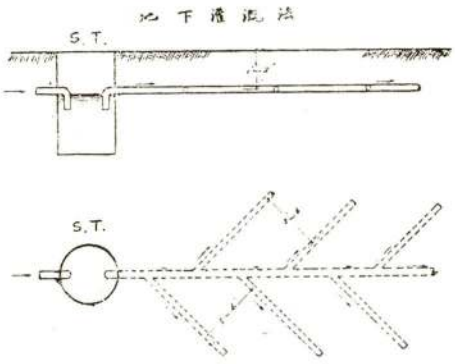
松の立てるもさびしかりけり

汚水淨化裝置に就いて（二）

工學士　米元晋一

（ロ）地下灌漑法

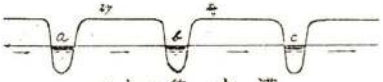
之は地面下淺い所に空目地で排水管組織を布設して之を通して間斷的に汚水を排除する方法であつて管の周圍の土質は間斷的に汚水と空氣に交互に接觸する樣に出來て居らねばならぬ汚水が土中に滲透する間に其抱含して居る有機體を土の粒子の表面に薄膜の狀態で殘留し其附近に棲息して居る微生物に其有機體と空氣とを接觸さす機會を與へて有機體を淨化するのである　排水管は一般に內徑三、四寸位の大さで地下一尺乃至二尺の位置に凡そ五尺乃至六尺の間隔に布設し土質に依り一人當り三坪乃至十五坪を要することが普通である又管の接目の周圍から土が侵入しない樣に小砂利で



其周圍を包まねばならぬ。硝化作用を營む微生物は地下一、二尺以下には多く棲息しないから排水管組織を地下餘り深く布設することは無効である。

若し土質が粘土層の場合は地下灌漑には不適當であるが土地が相當傾斜

をして居る場合には次圖の如く其表面に厚一、二尺の砂質土を上は置きして粘土層と砂層との中間に汚水を滲透さすことに由て清淨の目的を達することが出來る。

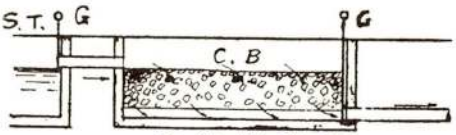


溝が適當ならば應用することが出來る。而して全部地下に施設されるから外觀を損することの無い利益はあるけれども一方集工事に注意しないと排水管の埋塞、地中滲透の不均一等のために意外の惡結果に終り得る缺點を伴ふことが有る

（ハ）間歇砂濾過法

此方法は灌田法に於ける天然土質に代ふるに特に用意したる砂質層に汚水を間歇的に灌注濾過するのであつて灌田法に比較すれば土地を要することは比較的少いが次に述ぶる所の接觸濾過法の方が寧ろ實用に適すると思はれるから茲に說明は省略することゝする。

（ニ）接觸濾過法（コンタクトベッドプロセス）或は充滿濾過法（フュルクルベルソエルファーレン）



接觸濾過床

此方法は床敷の上に集水排水裝置を施し且つ濾過材として碎石、コークス屑の如き粗雜の材料を塡充した水密の池槽に汚水を濾材面迄一パイ注入して暫時其儘になし置き次に汚水を引出して又暫時空虛狀態に放置し更に第二回目の注入を繰返す即ち斯の如くして循環的に働かす方法であつて數回此方法を繰返すときは濾材粒子の表面に好氣菌たる無數の微生物を以て培はれたる渣滓膜を成生するに至るのである。

然る上は汚水注加の循環的行程中に汚水を一パイ注入して暫時放置してある間に汚水中の有機體は渣滓膜の表面に沈堆或は吸收せられ又汚水を池から引出して空虛狀態に放置して居る間に其有機體は濾材粒子の間隙に侵入して來る空氣に曝露せられるから好氣菌と酸素と相俟て有機體を硝化し無害のものに變化するのであつて此ものは次の注入汚水が引出さ

る〻際に同時に排出せらるゝのである。

接觸濾過床は濾材中に空氣を侵入させることが必要であるから餘り微細な粒子を塡充しては効果が尠い又餘り濾層を厚くすることも宜しく無い。そこで通例粒子の大さは三乃至八粍濾層の厚は一米内外とする實例になつて居る。接觸濾過床は前述の如く汚水を注入、接觸、引出、曝氣の四階梯(ワンサイクル)を一周期として繰返し循環的に働かすのであつて一周期は六時間或は八時間を普通とする〻接觸濾過床の名の起て來た所以は汚水を池内に注入し暫時靜止の狀態に於て粒子の表面に接觸を保たしむることに依つて有機體を離脫するのであるからである必要なる床面積は汚水の濃度に依て變化があるが平均汚水一容積に對し濾材一、七容積位或は又表面一坪に付き一日汚水量八十乃至百八十立方尺の割合が適度である。

汚水の濃度強い場合には濾床を二段又は三段に設けて先づ第一濾床に掛け其流出水を更に第二又は第三濾床に掛くる場合もある。然かするときは非常に清澄した流出水を得らるゝのである。

接觸濾過床は其運用を秩序良く行ふと清淨効果は甚だ良いが乍併汚水濾過の一周期の各階梯を秩序良く運轉させるには人力に由るか自働灌注機を用ひねばならぬ。而して之を住宅用又は小人數用の汚水處理に應用するには自働灌注機は故障を起し易く其他濾材を時々掃除する等比較的手數を要するから考へ物である。乍併郊外地の住宅園や工場等に於て汚水量多く又餘地も相當に在り且監視人を置くことの出來る場合には應用が出來無いことは無いと思はれる。

(ホ)點滴濾過法(トロップルベー・エルフィーレン・スプリンクリング・フィルター・プロセス)或は撒布濾過法

此方法は集水及排水裝置を施した床敷の上に相當大きな粒子より成る濾材を普通厚五尺乃至九尺位積重ねて其表面から汚水を雨滴の樣に撒布濾過することに依て淨化するものである此濾過裝置は其運用の點から點滴濾過床或は撒布濾過床と稱せられて居る。此床は内部に汚水を張るので無いから地積に餘裕があり開放して置くも差支ない場合には周圍は大粒の濾材を用ひて空積として置て宜しいのであるから地積の關係上床面積に制限を加へらるゝか或は上部に蓋をする必要ある場合の外必

ずしも周圍に水密の壁を設くるの要は無い。

濾過材に汚水を撒布通過すること回數を重ねると濾材の表面の好氣菌を多數に培養する所の薄き粘膜を成生する。此床は濾材の粒子が比較的大きいから空氣の流通も宜しく從つて好氣菌は常に酸素の供給を受け得らるゝから撒布汚水が上部から下部に向つて濾材粒子の表面を傳ふて滴下しつゝある間其含む所の有機體に對して能く淨化作用を營むのである。

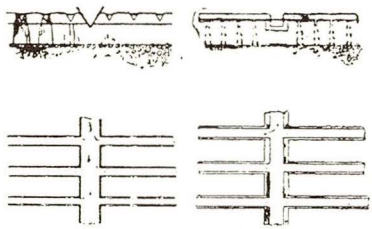
點滴濾過床は汚水灌注の方式如何に依て連續的にも又間歇的にも働かすことが出來る何れの場合に於ても濾材間の通風は外氣と內部空氣との氣溫の差、汚水滴下のために生ずる內氣の交代作用其他風等空氣の移動等のために惹起さるゝのであつて下底の排水裝置から流入する空氣が濾材間を通過して床の表面から逸出するのが普通である。小規模の床では周壁に處々に孔を設けて下底からも周圍からも空氣の出入に便せしむる樣にすることが出來る。之をピジョン、ホール、ウォールと言つて居る。濾材としてはコークス類、花崗石、其他堅硬質の風化し難い碎石類を多く使用して居り粒子の大さは徑五、六分乃至三、四寸位迄を程度とするけれども外國都市の汚水處分場では尙一層大粒のものを使用して居る所も有る。

本濾過床の構造に付て注意を拂はねばならぬことは濾材は同大のものを用ふるよりも大小混用し而かも大粒は下層に使ひ上層に至るに從つて漸次小粒のものを使ふ樣按配すること。上層に細粒のものを用ふるとしても其層の厚は餘り厚くない樣にし無ければ通風を阻害する虞がある。濾材は成るべく厚い方が淨化効率に良い餘り淺いと汚水が好氣菌に曝露せらるゝ時間が短いがために淨化効率を害ふ。層の厚は五六尺位は無ければならぬ止むを得ない場合と雖少くも三尺位の厚を與へねばならぬ。所要濾材の容積は汚水量一に對し濾材一、三乃至二位で又必要な床の表面積は接觸濾過床の七割位で足りる。而して其表面積は濾層の厚さに反比例せしめて增減しなければならないが層が或程度以下淺くなれば表面積擴大の割合を增加せねばならぬ。次に汚水灌注法に充分注意して全表面に均一に撒布し而かも成るべく細滴で充分を言へば霧狀で撒布する樣な工夫をなすことが肝要で有

る。若し大なる滴狀で灌注すると汚水が濾材の空隙を素通りすることゝなり清淨効果が無くなる。又濾層が水に浸されない樣にせなければならぬ。此床の缺點は濾層及排水裝置は全然排出管溝の上部以上に有らねばならないから土地の落差不充分なる時は喞筒を中間に挿置して落差を附けねはならぬのである。

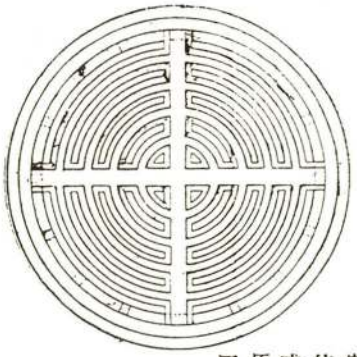
汚水灌注方法としては汚水を床の上に樋で導いて主樋から多數の枝樋に派れ其枝樋の側面に穿ちたる多數の小孔から滴下さす方法が最も一般である併し其据付に當りレベルに注意しないと或部分から汚水が多量に灌注さるゝことになり易い。

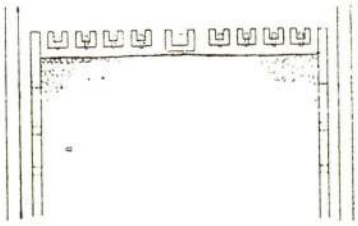
汚水の流下量は常に變化して居るのであるから連續的に之を濾床に灌注する方法を採ると濾過が不均等になる欠點か生ずる。然るに汚水が一定量に溜まつたならば其を同時に灌注する方法を講ずることが出來れば灌注が均等に行はれ且又床を間歇的に働かし得るから濾材間の曝氣作用も完全に行はれることゝなるから甚だ好都合である。之は自働灌注機を應用すれば出來るのである此自働灌注機には種々あるけれどもなるべく可動部なき裝置が最も故障が起らないから宜しいのであつて此意味に於てサイホンの原理を用ひたものが最も好都合である。此種間歇的灌注裝置は土地に相當の落差が有るか或は喞筒を使用する場合には容易に應用し得るのであつて、又相當落差が得らるれば汚水に壓力を加へらるゝからスプリンクリング、ノツヅルを通じて極めて微細狀で撒水することが出來從て汚水淨効率の上に甚だ有利である。



撒水裝置にも旋廻的又は直動的に裝置其自身が動いて濾床面に均等に撒水するものもある。が管理人を要するから住宅等の汚水處理には應用出來難いと思ふ。

要するに點滴濾過床は粒子が比較的大きく從て汚濁のために表面が埋塞せられる虞が少く從て管理に手數を要せず又地積を要すること最も少く而かも淨化効率が大きいから其表面に蓋を施し通風

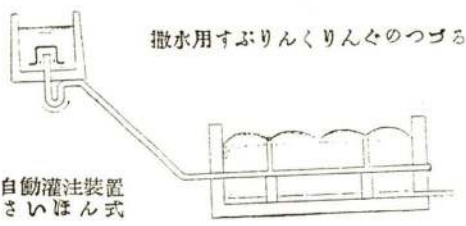




西原式住宅用浄化槽撒水樋

の方法を講ずるに於ては市街地の住宅又は小人數の汚水處理に對して最も都合良きものと思はる。若し郊外地其他敷地に餘裕ある學校、病院、旅館等の汚水處理に對して開放狀に此を設置することが出來る場所では現時に於いては最も實用的であり且効果ある汚水處理法と云ふことが出來る。

本邦で現今住宅の汚水處理に用ひられて居るのは專ら此點滴濾過床の原理に由て居ると斷言し得るサイホン及スプリンクリング、ノッヅルを用ひて開放狀に施設せられて居る實例は東京慶應大學醫學部病院相州茅ケ崎南湖院、神奈川縣川崎東京電氣株式會社、奈良ホテル等である。



自働灌注装置

撒水用すぷりんくりんぐのつのゞる

(ハ)アクチヴエテット、スラッヂ法（培菌汚泥法）

此方法は濾過清淨法の逆を行ふたものであつて一九一二年始めて英國マンチエスター市のフオーラー博士に依て考案せられたもので其要領は汚水沈渣に一定時間空氣を吹送つて好氣菌を無數に蕃殖せしめたる後之を汚水曝氣槽内に入れ處理すべき汚水を沈渣に對して一定の割合を保たして其槽内を通過せしめつゝ空氣を吹送つて汚水と上揭沈渣とを攪拌混和して互に親密なる接觸を謀ること一定時間の後沈澱槽

に導いて清澄水を引出すのである。爾來英米各市で實驗せられ又相當大規模に實用せられて好成績を擧げて居る實例もあり現今汚水處分界で點滴濾過法と覇を競ふて居るの狀況であつて其原理が細菌的化學的作用に立脚して居て正當確實なことは最早や疑の餘地無き迄に至つて居るが裝置が面倒なこと沈渣の取扱其他運用管理に手數を要するがため住宅又は小人數用の汚水處理には應用困難と思ふ。

(五)汚水の消毒

汚水中に極めて多數の細菌を抱有して居ることは申迄も無いことである。而して清淨處理の行ふた汚水中の細菌は大に其數を減ずるけれども尙多數の細菌を含んで居るものである。多くの細菌は人體に害を及ぼさないけれども其中で赤痢、虎列剌窒扶斯の如き病原菌を排泄汚水中に混じて居る場合には其數例ひ少くも甚だ危險と言はねばならぬ茲に於いて水に原因する傳染病が流行する場合には汚水の消毒と云ふことの必要が起つて來るのである。

普通消毒殺菌劑としては鹽素酸、カルシウム（漂白粉）又は鹽素液が使用されて居る。其割合は排出汚水の性狀に應じて鹽素液ならば百萬分に付〇、二乃至一〇位であるが漂白粒中には三割内外の鹽素しか含んで居らぬから之を用ふる場合には〇、七乃至三三位にしなければならぬ。此割合は重量で言ふのであつて漂白粉を用ふる場合には先づ之を水と混和して液汁を造つて之を汚水中に注加せねばならぬ。近頃鹽素液を自由に加減注入し得る裝置も販賣せられて居る。

此等の藥液が殺菌作用を遂行するには一定時間汚水と接觸を保たしめねばならぬから河や運河等公有水體に排出する前にある接觸時間を與ふるの要がある。依て排出下水管路が長い場合は差支無いが其管路短い場合には汚水處理場内に溜桝を造て或時間内停滯せしめねばならぬ。此停滯若くば接觸時間は少くも二三十分位を與へよとの說がある昨秋東京市に虎疫が流行した際三河島汚水處分場で實施したる成績を見るのに重量で漂白粉液を汚

水量に對して百萬分の二を注加したのに十五分間後には尚生存菌を見出したが三十分間後には全然滅し又百萬分の十を注加したのに十五分間後には全然死滅した。之は大に參考となすに足ると思ふ。尚窒扶斯菌は虎列刺菌よりも稍強いから消毒藥注加の割合は稍多くする必要があるのであらうと思はれる。

(六)住宅用汚水處理裝置設計要項

住宅用汚水處理裝置は都市の汚水處理裝置に較ぶれば其規模は甚だ小さいのであるが小規模の裝置は大規模のものに較ぶれば一方から見れば外形は甚だ簡單の樣であるが他方から考へれば中々厄介な點が多いのである。

都市汚水處理又は敷地に餘裕があり且開放狀に裝置しても差支無い場合には割合に其施設が安易であるけれども市街地住宅の汚水處理裝置は一般に場所に餘格が少いこと丶之を開放狀に設けることを殆ど許されないから其施設が極めて窮屈であるがため較もすれば其機能を害せられて効果を奏しないことになるのである。

住宅用汚水處理裝置は構造が簡單で經費を要することも少く且又其運用に手數を要せずして相當の効果を擧げ得るものでなければならぬ。此意味からして私は沈澱槽(セプチック、タンク若しくはバイヲリチック、タンク)と點滴濾過床及消毒槽とを工合よく組合せたものが最も實用的のものであると考へる。裝置の機能を藥品の反應作用に俟つ樣なものは其作用が恒久的のものであれば兎も角然らざれば常に人手を要するのと又監督者の側から考へて安心が成り難いから大規模のものには兎も角小規模のものに對しては面白く無いと思ふ。

次に住宅用汚水處理裝置の設計に就て注意しなければならぬ要點を述べて見ようと思ふ、前に述べた樣に住宅用汚水處理裝置は殆んど開放狀に設置することを許されないから上部に蓋を施し且裝置全部を地中に埋込まねばならぬがために周圍に防水壁を設けて汚水の漏出や地下水の滲入することの無い樣にせねばならぬ。又換氣作用を促進さすがためには空氣を濾過床内に導き入れ且内部の汚

置分析表

警視廳衛生試驗所分析

メチーレンブラウ脱色反應	四時間酸素吸收量	効率	アンモニア含量	蛋白性アンモニア含量	効率	直接アンモニア含量	亞硝酸含量	摘要
三十分間ニテ脱色ス	0.997	67.9%	3.000	0.360	50.0%	3.000	—	四原式新案特許第六一三五四號ニヨリ施工セルモノ
五時間以内脱色セズ	0.321		2.400	0.180		2.400	0.400	
五十分間ニテ脱色ス	4.528	67.7%	4.200	1.200	75.0%	4.200	—	同上
五時間以内脱色セズ	1.466		3.000	0.300		3.000	微量	
十三分間ニテ脱色ス	2.466	66.26%	4.050	0.435	44.81%	—	—	同上
五時間以内殆ト脱色セズ	0.832		1.650	0.240		—	反應著明	
一時間内還色スルモ脱色セズ	2.064	57.2%	3.600	0.840	57.2%	3.600	—	水洗便所汚水及手洗水處理
五時間以内脱色セズ	0.884		3.000	0.360		3.000	0.180	
四時間以内ニ脱色ス	1.974	64.8%	3.600	0.440	78.4%	—	—	
五時間内ニ脱色セズ	0.696		2.400	0.240		—	0.035	
三十五分テ脱色ス	1.118	64.0%	1.800	0.420	57.2%	1.800	—	四原式新案特許第六一三五四號ニヨリ施工セルモノ
五時間以内脱色セズ	0.403		1.200	0.180		1.200	0.170	
九時間以内脱色セズ	0.382	50.0%	1.200	0.300	60.0%	1.200	—	同上
五時間以内脱色セズ	0.191		0.600	0.120		0.600	反應著明	
一時間ニシテ脱色ス	2.190	43.0%	9.000	0.720	59.0%	9.000	—	同上
五時間以内脱色セズ	1.269		6.000	0.300		6.000	0.600	
二十分ニテ脱色ス	2.252	48.0%	7.800	0.540	45.0%	7.800	—	水洗便所汚水及手洗水處理
五時間以内脱色セズ	1.190		5.400	0.300		5.400	微量	
九時間以内脱色セズ	0.602	70.1%	0.300	0.060	50.0%	—	—	同上
同上	0.182		0.120	0.030		—	0.140	
十五分間ニテ消ユ	2.190	50.8%	3.000	0.480	50.0%	3.000	—	四原式新案特許第六一三五四號ニヨリ施工セルモノ
五時間以内脱色セズ	1.079		2.400	0.240		2.400	微量	
三十八分間ニテ脱色ス	0.950	83.9%	6.000	0.240	50.0%	6.000	—	同上
五時間以内脱色セズ	0.153		1.200	0.120		1.200	0.200	
五時間内脱色セズ	3.227	77.8%	5.400	0.600	70.0%	5.400	—	同上
同上	0.717		1.800	0.180		1.800	—	
四十分間ニシテ脱色ス	1.746	62.0%	3.000	0.480	63.0%	3.000	—	同上
五時間以内脱色セズ	0.666		2.400	0.180		2.400	著明	
四十五分間ニシテ脱色ス	2.530	65.0%	7.200	7.200	75.0%	7.200	—	同上
五時間以内脱色セズ	0.896		4.200	0.180		4.200	著明	

汚水淨化裝

名稱	設置箇所	使用人員	採酌月日	採酌箇所	外觀臭氣反應等
三菱合資會社本社	東京市麹町區有樂町	1.250人	10—10—29	入口	稍濁濁臭アリアルカリ性
				出口	微濁濁殆ト臭ナシアルカリ性
犬養毅氏	同 四谷區信濃町	20人	11—8—14	入口	濁濁臭著シ微アルカリ性
				出口	微濁臭ナシアルカリ性
三越呉服店工場	同 麹町區永樂町	1.200人	8—9—17	入口	微濁アルカリ性臭氣稍強シ
				出口	微濁アルカリ性殆ント臭氣ナシ
唯連三氏	東京府下代々幡町代々木	10人	11—2—24	入口	臭アリ稍濁濁弱アルカリ性
				出口	臭ナシ微濁弱アルカリ性
慶應大學醫學部病院	東京市四谷區信濃町	1.300人	10—1—13	入口	臭氣稍著シクナシ濁濁微アルカリ性
				出口	殆ント臭氣ナシ微弱アルカリ性
川崎吉兵衛氏	同芝區白金三光町	10人	10—5—13	入口	少シク濁濁臭アリ弱アルカリ性
				出口	微濁臭ナシ弱アルカリ性
三菱銀行	同 麹町區有樂町	550人	11—6—6	入口	微濁臭アリアルカリ性
				出口	澄明臭ナシアルカリ性
森岡平右衛門氏	同 神田區駿河臺南甲賀町	20人	11—11—2	入口	殆ント清澄臭アリアルカリ性
				出口	清澄臭ナシアルカリ性
星製藥會社桐ヶ谷工場	東京府下荏原郡大崎町桐ヶ谷	360人	11—11—15	入口	微濁臭アリアルカリ性
				出口	微濁臭ナシアルカリ性
男爵藤田平太郎氏	東京市小石川區關口町	30人	9—8—24	入口	澄明殆ント臭ナシ弱アルカリ性
				出口	澄明殆ント臭氣ナシ微弱アルカリ性
秀英舍第壹工場	同 牛込市ヶ谷加賀町	350人	11—8—2	入口	白濁臭アリアルカリ性
				出口	白濁臭ナシアルカリ性
日本女子大學櫻楓會寄宿舍	同 小石川區高田豐岡町	120人	10—6—14	入口	微濁臭アリアルカリ性
				出口	無色澄明臭ナシ微弱アルカリ性
星製藥株式會社本社	同京橋區南傳馬町	350人	11—9—19	入口	黒濁臭氣アリ極微弱アルカリ性
				出口	澄明臭氣ナシ弱アルカリ性
東京齒科醫學專門學校	同 神田區三崎町	200人	11—11—17	入口	濁濁臭アリアルカリ性
				出口	清澄臭ナシ弱アルカリ性
東洋英和女學校	同麻布區鳥居坂町	350人	11—10—25	入口	濁濁臭氣アリアルカリ性
				出口	清澄臭氣ナシ弱アルカリ性

穢空氣を排出するがために特殊の空氣孔やヴエント管を取付けねばならぬ。斯樣な事項は都市の汚水處理場では殆んど不用のものである。元來汚水清淨裝置の中で最も大切な役目を掌る部分は濾過床であるから此濾過床へ汚水を成るべく細滴で且全面一樣に撒水することゝ濾材の間隙に常に新鮮な空氣が下部底敷上の集水排水裝置から容易に引入れられる樣に濾材を堆積し且排水裝置を工夫し又出來得るならば濾層の四周からも空氣が流入し得る樣な構造とすること及裝置內の空氣のために居住者に惡臭を感ぜしめない樣にするがために排便管は沈澱槽の水面下に連絡し又沈澱槽や濾過床內の空氣が直接附近地上へ漏れずに外部へ逸出し易い樣にヴエント管は成るべく高く延長するが宜い。之がためにヴエント管を家屋の壁に沿ふて建物の軒高以上に樹てることは普通行はれて居る所である。又內部を時々檢査する必要があるから裝置の上部には要所〳〵に開閉自由な出入口を設け平素は之を氣密のものとして置かねばならぬ。加之沈澱槽內の沈渣は半年若くば數年一回位は掃除する必要がある覺悟を以て將來其汲出しが出來る樣に構造して置かねばならぬのである。尙沈澱槽內から輕い浮滓のみならず膠狀質の微細物が濾過床に逸出すると漸次にして撒水裝置や濾材の間隙を塡塞して淸淨効率を低下するものであるから之等が汚水と共に逸流することを防ぐがために沈澄汚水を水面以下から引出すことの外に沈澱槽と濾過床との中間に豫備濾過層一名粗濾層を挿置して之を經由して濾過床に流出する樣にすることは非常に有効のものと信ずるのである。

次に住宅用汚水裝置に依て汚水淨化効率は果して何程位得られるかを說明する要があると思ふから左に私が從來自ら設計したものや又西原衛生工業所で設計施設したものに對して警視廳で分析試驗をせられた成績の一部を貰受けたから之を拔萃して見れば次表の通りであるが

即ち大體から言へば

一、酸化力は著明で平均五〇乃至六〇パーセント或は其以上

一、有機性窒素含量の減滅度平均五〇乃至六〇

バーセント或は其以上斯の如く裕に警視廳取締規則の制限以上の効率を擧げて居り從て流出水は臭氣を帶びず性狀も亦大に改良せられるのである。消毒の成績に付いては發表を受けて居らないが漂白粉の溶液や鹽素液を適當に注入して十五分間以上接觸さして水體に放流するに於ては其殺菌作用が顯著であることは疑ふ餘地が無いのである。

最後に建築家諸氏に一考を煩はしたいことを申述べて見たいと思ふ。申迄も無いことであるが建築のプランを作らるゝ場合に此汚水處理裝置に對して豫め相當の餘地を存置せられんことである。而して其設置場所は成るべく後庭に選定せられんことを希望する。往々地下室に之を設けねばならぬ場合がある樣であるが施設が甚だ窮屈であり從て構造に缺點を來して惡臭漏洩の危險と淸淨効率の不充分とを招く機會を與ふるものと考へられるのである。

次に普通住宅では小便器に對して水の洗滌が不充分である否寧ろ小便器には毫も洗滌水を瀉出しない者が多い樣である。事務所、旅館、病院等の大建築では通例小便器に對して自働的洗滌法が行はれて居るから其心配は無いが家庭では兎角之に注意が怠られて居ると思はれる。從て汚水處理裝置に流入する汚水が非常に濃厚であつて裝置の淸淨率は相當にあつても流出水其ものが尙濃厚で規定に合格し無い場合が往々有るが少し注意して洗滌水を相當に出すと規定に合格する流出水が得られるのである。之は建築家に註文する事柄ではなく寧ろ居住者が自ら注意せねばならぬことであるが序に私共の經驗を述べたのである。

尙私共の經驗に依れば事務所建物や學校、旅館、公署等の比較的規模の大きな汚水處理裝置は殆んど凡て間違ない位に成績を擧げ得らるゝ自信を得たのであるが小人數の家庭用のものは往々成績不良のものを出すことがある。之は前述の通り居住者が洗滌水の瀉出を怠り易いことが一原因をなして居るのであるが又裝置の規模が非常に小いがために沈澱槽の平均力が少いためであらうと思ふ。即ち相當規模が大きくなれば沈澱槽が平均力を持

て居るから流入水と同量の汚水が直ちに流出する様なことは先づ無いのであるが非常に小規模のものとなれば流入水が何等の變化を受けずして直ちに出ると云ふ傾向を持て居る即ち濾過床を平均に働かし得ないことも大に手傳ふて居るのでは無いかと思はれるのである。豈んや小規模の設計のものを實際多人數不規則に使用することゝなれば其程度は一層著しくなるのである。警視廳取締規則でも此ことは相當考慮して作られてあつて沈澱槽の最小制限を三十人分とせられて居るのであるが場合に依ては尚一層大きくする必要があるのでは無いかと考へられる。

温酒場の灯に映ゆる雨の街さびし



勝鬘院

―「古寺巡禮」の三―

池田谷久吉

例年、奈良の水取だといふと漸く暖くなりかけてゐても、またもとの極寒に後戻りをして寒さの駄目を入れなければなか〳〵ほんとに暖くはならない。

今年も、もう二三日で水取りが終りだといふので頗る寒い。心齋橋筋のM書店を出たのがもう三時を少し過ぎてゐた、スチームの通された暖い部家を出て、急に冷え〳〵としたコンクリートのペーヴメントの上を歩むと足の先が痛い。

長堀橋で電車を乗換えて南へ行く。

日本橋筋の四丁目で下車して東へ行くと黒ずんだ、畳でも家の内がうす暗く、じめ〳〵とした汚ない、軒の低い長屋が數丁も並んでゐて、惡寒い風が灰色の砂を屋根の上を通り越して大空にまで

吹き上げてゐた。

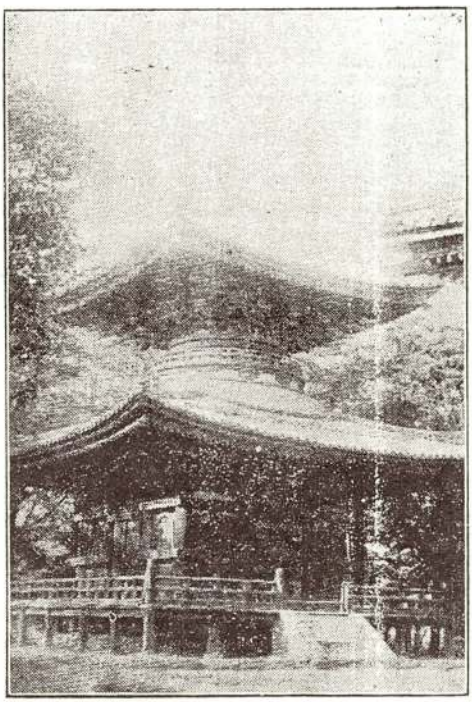
狹い道の眞中で腕白小僧が鼻汁を出して遊戯をしたり、四つ辻では燒芋、關東煮、カルメル燒などの車がごちや〳〵してゐて、自轉車や荷車がその中を危つなかしく縫つて行く、實に目が眩みそうなところである。

こんなところがかなり長く續くので頭がくしや〳〵して來た。

早くどこか美しい、すつかりとした氣持のよいところへ出たいと思つてゐた折柄、眞直東の方を見上げると頭の上のズツト遠い高いところに風にふるえる枯木の小枝の中から塔婆の上層と九輪とが、ぬうと、然かも水煙は立ちのぼる陽炎の樣に冬の淋しい大空に突つ立つてゐるのが見えた。

○氏は高い大きな鼻を赤くして砂や埃のために曇つた眼鏡のガラス越しに丁度紛失したものが見付かつた時の樣な或る安心と喜悅とを感じたらしく『あゝ、あれ〳〵』と元氣よくいつてゐた。

『えゝあれです、あれが夕陽丘、勝鬘院の多寶塔です、凡て日本建築の屋根と軒先とのカーヴが大體その美しさを決定するもので、これがまた、たしかに日本建築の卓越した特長とも云ふ事が出來ますね』私はいつも、こんな事を考へてゐるので話した。



× × × ×

寺町の通を横切つて石疊の阪道をぐり〳〵と廻つて人通りの少ないお寺の裏道を登つて行くと、いつの間にか大江神社の表鳥居前へ出て居た、こ

ゝは高津に亞ぐ大阪での見晴のよいところだつた煙つた街の家並は押し潰された様に平つぺつたくうね〳〵と波立つてゐた。

そこから東へ少し行くと、といつて、うつかりするとすぐ通り越しそうな手近くの北側に勝鬘院の南大門がある、實は昔は大門だつたろうが四脚門の丹塗にした小さい御粗末なもので入口の虹梁の中央には愛染堂と書いた門燈がある。

そこから北へ這入ると、突き當りの中央に勁健な單層のごつしりとした、愛染堂の堂宇が威儀よく建つてゐて、その屋根の棟の上からは多寶塔の僅か九輪と水煙とがぬぼつと聳えてゐた。

丹塗の丸柱に納札がたくさん斜違に貼られてゐるのが、どこか奈良のあたりの古寺を偲ばせる。

今の建物は新らしいものであるが創建は推古朝のもので當時、聖徳太子は此の堂宇を建立されて親しく、勝鬘經を、講究、禮讃、朝夕勤行にいそしまれ、その精進と修業とは當時我國文化の中心をこゝから產み落してゐたものであつた。

現在本尊として愛染明王を安置して愛染堂と名付けてゐる、堂内は瓦敷になつてゐて質素な須彌壇が妙に高く設けられ厨子が列んでゐる。

× × × ×

境内はお參りの人さへもなくて非常に淋しかつた、松、櫻、槇、棕櫚等いろ〳〵の雜木が疎に植えられてゐて、こゝはこの近くの一番高い土地らしかつた。

西側は一重列べの老ひた雜木を境に芝原の涯下には夕陽丘女學校の校舍のグリーンのペンキ塗が丁度足の下に鉛色の甍が牛の臥つた様に大きな胴體を横へてゐる。

北側はコンクリート造の塀によつて區劃されて隣りの屋敷の中には小さいさつぱりとした平家の亭が茶畑のなかに見えてゐた。愛染堂の西側から裏へ廻つた、そこには先きに下の街から微かに眺めた多寶塔が低い石段の上に、思つたよりも大きな雄姿が靜かに空間を獨占してゐた。どこからが一番美しく見えるのだろうかしらと、あちこち遇つてゐる間に周圍の廻椽の板が壞れてゐて勾欄の

金物が皆取れてゐることや、龜腹の漆喰などの荒れてゐることなども目に着いて何となく氣になつて仕方がない。その他ずいぶんと各部が腐朽してゐるのが淋しい感を與へる。

敷地が狹いのでこの多寶搭の姿態全景を思ふ存分に見せ得る丈けの餘裕を持たないのが何よりも殘念ではあるが、また一面に於て「こんな、どころも大阪にあるのか」と思はせるほど配景が珍らしく野趣に富んでゐる。

北から西の方へ地勢が一高一低と實に凹凸起伏變化多く、雜木林だとか、茶畑が交々にあつて向ふの白く剝げた丘の上には「あの新古今和歌集」を撰した鎌倉時代の名歌人、藤原家隆卿の墓碑が枯木立に圍まれてゐるのまでが見えて、豊かな雅致が溢れてゐる。

× × × ×

この塔婆は今から昔、凡そ三百二十幾年、文錄三年とかいふ頃ほひ、當時政權を恣にしてゐた豊臣家の手によつて再建されたものでプラン、方三間、多寶塔としてはかなり大きなものである。

桃山初期時代の作品中の傑作で例の南河内郡天野山の多寶塔より五六年早く出來てゐる。

上層の軒は二軒の精巧な扇垂を配して、その放射狀のプロポーションよろしく下から見上げてゐると實に莊麗なものである。

斗拱は唐様の四手先の割合複雜なものを用ひ、各隅木のあたりには、桃山特有の手挾を用ひ、下層の軒は矢張り二軒であるが、支輪を設けて二手先の簡單なもので支持してゐる。

この塔婆の各間毎に用ひられた墓股は大に見るべきもので面白く出來てゐる、即ち十二支に倣つて各禽獸に草花を配し、各方位の順により列べその胆放、奇抜なる意匠と勇健な彫法に依つて丸彫にされてゐる。此の點は桃山時代の作品として注意すべきものである。

是等は最早や構造的立場から離れて、只單に建築裝飾としてのみ價値あるもので、その禽獸の構圖といひ手法の寫生的にして精密を極め絢爛たる彩色の蹟は偲ぶに難くはない。

一般に木割が稍雄大な感があつて各圖とも兩脇間に火灯窓を附け、全體が黑ずんだ古色を帶びてどこの古寺にも見るクラシカルな抹香の匂が馥郁として神經を興奮させる。

殊に軒廻りの彩色の跡が惜しい事には胡粉地のみを殘してゐる。

他は、はつきりと見えないが精細に覗き込んで見ると雲紋、花菱、蓮華等の極彩色が微かにほの見えてゐる。

× × × ×

愛染堂の背後の石に腰を卸してジット見てゐると渦巻の樣な雲が段だらになつて忙しそうに走つてゐるので宛然塔がグラ〳〵とこちらの方へ倒れかゝつて來る樣に見える。

門を出るともう街は夕暮の苛々とした空氣に充たされてゐた。

電燈は點いた。

私達はこうした久し振に得たクラシカルな感興をこのまゝ街の中へ持ち歸るには餘りに惜しくてならなかつた。

先に境內から見た家隆卿の石碑の前に何となく行つて見たくなつた、南門から東へ少し行つてからまた北へ行く細い怪しい道を見付けて辿ると丁度勝鬘院の境內の東へ出た、破れ土塀に挾まれた狹い矩の手に曲つた道には一面にいろ〳〵の落葉が敷き詰めた樣に重なり合つてゐた。

北へ突き當ると生垣があつて、全くこの邊一帶は田舍の城下の御屋敷跡の樣なところである。

ずつと西へ少し下り心地で行くといよ〳〵道は三尺位の垣間になつて、そこには「この道は女學校の通用道です通り抜けは出來ません」と書いてゐた、なるほど眞直には校舍の屋根が見えてゐる。

然し家隆卿の碑は校內にあるのだ、私達は何だか侵すべからざるものを犯した樣な氣がしたが女學校の中へ這入つた。

× × × ×

風はだん〳〵強く吹いて寒さはいよ〳〵烈しくなつて來た、學校の中は靜かだつた、誰も人の氣

配もない。頂に立つて四圍を見てゐると、明けてゐるとも、暮れてゐるともわからない様な、おつとりとした黄昏がだん〳〵長くなつて街にも電燈がきらめいて薄闇が地平線から次第〳〵にその翼を大天地の上に擴げかけて雜沓の地、活動の都は暮れて歡樂の都、淫蕩の幕は切り卸されて一切の秘密は魔の手を逞うせんとしてゐる。

家隆卿は七百年のその昔、今私達の立つてゐるこの丘の上から遠く淡路の島影に沒せんとする夕陽を眺めたとき「契あればなにはの里にうつり來て波の入日を拜みつるかな」と詠じた。だが星遷り歲變つて今はどす黒い煙の棚引いて灰色の瓦の波にきらめく電燈の光を眺めるのみである。

餘りこの邊の道の勝手を充分に知らない私達は東へ〳〵と歩んだ、もう何時しか日はとつぷりと暮れて終つて街路で子供等は鬼事をして興がつてゐた、この邊はどちらを向いても寺ばかりだ。

その表通りには言ひ合はした様に土塀がズート續いてゐる。實に隱氣だ。

ところ〳〵寺の入口だけに門燈が點いてゐるだけで其の淋しさつたら全く疲れ切つれものゝ休憩のシンボルの様である。

上本町八丁目の停留場で電車に乘ると初めて華やかな都會の縮圖を見る様な氣がして現實はまた私達の生活を大手を擴げて待ち構へてゐた。

灰色の寒空には眞黒けな凄慘なほどの叢雲が重なり合つてゐた……自然は私達の限りある生命をこうして一日死宛に導いて行く。（了）

誠實に勝れる智慧なし

バベルの塔上での會話

水町邦生

ネルバ。さ。階段は盡きた。とうとう盡きてしまつた。あ。これが頂上だな。あのナナと一緒にシナルの平地で此の塔を見上げた時は、こんなに高く素晴らしい塔に、どうして頂上などがあらうと、二人で少し氣味惡く考へたものだ。なにしろ此の塔の眞下から素早い駿馬に激しく鞭をあてゝ七日七夜もひた走りに走り去つた地點からでも、まるで天と地との梯の如うに、此の高塔は實に素晴らしく、巨人のやうにどつしりと聳え立つて見えるのだからな。何といつて、自分はこの感動を人に傳へたらいゝだらう。全く、かうなればこの小さな自分達の信仰といふものも自分乍ら怖ろしいものだ。邑を建て塔を昨り、その頂上を天に至らしめ、自分達の名を揚げやうといふのが、自分達の信仰だつた。その塔が完成した。今、自分達はその頂上へ立つた。さ。自分達は天へ來たのだぞ。人類の夢は夢のまゝでは終らない。人類は天へ登る道を作つたのだぞ。何といふ素晴らしいことだ！何といふ輝かしい創造だ！自分達も神になれないこともないかも知れない。なれるのだ。なつたのだぞ！さ。ラビハテ。早々その黄金の釘をそこへ立てゝくれ。

ラビハテ。まあ、さう急がなくていゝ。二人は二人に與へられた最も光榮ある使命を、最も賢く完全に遂行しなければならないのだ。二人は人類のこの高塔に、最後の完成に刻印を打つのだからな。君の槌の方は用意はいゝかい。ひよつとして最後の釘の打ち込み方の惡かつたために、この塔が倒れないでもないからな。

ネルバ。何だつて！此の塔が倒れると言ふのか

い？　天へ登つたので眩暈でもするのかい。しつかりしてほしい。何といふ妄想だ。一切は極度に完成されてゐる。こんなに壯嚴に完成されてゐる二人がこゝまで登つて來るのに何日かゝつたと想ふ。丁度今日で九十九日目だ。此の塔を建て初めてから何年になると想ふか。人類の全らゆる族の女子供までがすつかり働いて、丁度今年で九百九十九年目だと言ふぢやないか。そんなに壯大な人類の塔だ。そして現にこんなにして突つ立つてゐるのだ。どこから馬鹿らしく倒れると言ふのだ。あの怖ろしい大洪水の時に、あんなに激しく波に搖られてもびくともしなかつた箱船を作つたノア以來の、大建築家大工匠が何千人となく集り心を合はせて、全らゆる建築樣式の精粹をとつて、もうこれ以上どうすることも能きないまでに完全に作り上げられたのがこの塔だ。何といふこの石と石との美しい權衡（バランス）だらう。何といふ球蓋（ドオム）の美しさだらう。何といふ蛇腹（コオニス）の美しさだらう。それにもまして、何といふあの薔薇圓窓（ロオズ・ウヰンドウ）の華やかさだらう君はあの五百階目にあつた聖母堂（レヂイ・チヤペル）の、あの優美な拜殿を忘れたのかい。一體、あの二ムロデ族のミラノの人を泣かす程の熱中さはどうだ。彼は此の塔のことを、神の完全と等しき塔とまで言つてゐる位だ。彼が近頃あんなに痩せ果てゝしまつたのは、あまりに此の塔の完成のために勞苦したからだと言はれてゐる。それとも、君は此の塔に就いて、何か制え難い不平でもあると言ふのか。

ラビハテ。無いとは言へない。正直にあると言はう。僕はあのミラノの設計したものは、例へ窓の穹窿（ヴオルド）トレセリ一つのとり方でも氣に入らないよ。穹窿の設計に就いては、僕は全部に繋骨（ハアン）を用ゐて素晴らしい星空穹窿（ステラア・ブオト）にしやうと呈言した。ミラノは平凡に間骨（ディルセロン）だけを用ゐて下らないありふれた交叉穹窿（ブオルト）にしやうと主張した。そして僕は拒まれ退けられた。建築を知らない馬鹿が塔を建てたのだ。ふん。ミラノが此の塔の建築のために寢食を忘れて、あんなに慘めに痩せ疲れてしまつたのだとは多分君だけの面白い觀察だらうよ。吃驚しないで聞くがいゝ。彼奴があんなに醜く痩せてしまつたのは、あのナフト族の妖婦ナナの淫らな歡心を得

たいために犬のやうに走り廻つたからなんだぞ。此の高塔をよし知らない者があらうとも、ミラノとナナとのあの有名な噂を知らない者はあるまい丁度彼奴が七十七階目の工事を監督してゐた時、ナナがやつて來たので、彼奴はナナとふざけてゐる間に、うつかり窯窿の力骨を忘れたのだ。そしてずつと後に氣がついたが、流石は彼奴だ、そこを、彼奴が獲灰の代りに發明したといふ石漆で狡猾にも塗りでごまかしてしまつたのだ。神と人類との塔を、彼奴は妖婦のために賣つて了つたのだ！　どうして彼奴等に人類の藝術がわかる！　塔は倒れなければならないやうにできてゐるのだ。ナナの奴も一緒に呪はれて塔の下敷になつて死ぬだらうよ。

ネルバ。何だ！　もう一度言つてくれ！……

あのナナがどうしたと言ふのだ！

ラビハテ。塔はなる程立派だね、と言つてゐるのだよ！

ネルバ。うむ！……

見知らぬ人。塔は倒れなければならぬ！

ネルバ。え？　何だ……あなたは誰だ！

ラビハテ。何處からこつそり來たのだ。ネルバと唯二人で登つて來た筈のこの塔へ、あなたは一體こから來たのだ！

見知らぬ人。塔は倒れなければならぬ！

ネルバ。は、は、は。ラビハテ。二人がこんな所でつまらない口論を初めるものだから、天使に化けた狂人がどこからともなく來たのだ。さ　早くその黄金の釘を立てゝくれ。自分達は急がなければならぬ。

見知らぬ人。それは何だ。

ネルバ。聞きたいかい。これは黄金の槌だ。ラビハテの持つてゐるのは黄金の釘だ。この二つはカナン族の處女ハランが、一身を捧げて二十七年もかゝつてひたすら今日の用のために磨きあげたものだ。これで、この高塔の最後の完成の刻印を打たうと言ふのだ。この釘をこの頂上へ打ち込んだ瞬間、この塔は全く完成するのだ。二人は七十七の數多の族から選りに選られて、この最も光榮ある使命を與へられたのだ。ラビハテが釘をさ

し、僕が打ち込むのだ。……だが、あなたにはこの二人の光榮がわかるまい。……實際、考へるだけでも身慄ひする。何といふ素晴らしいことだ。何といふ嬉しいことだ。眩暈がしさうな氣までする。……

ラビハテ。さうだ、チルバ。君はそんなに有頂天になつてゐる。嬉しいだらうよ。……だが、卒直に白狀するがいゝ。君のその喜びは、今、決して、この塔の完成されたゝめにではあるまい。君はこの釘を一秒でも早く打ち込んで、素早く塔の下へ辷り下りてゆかうとしてゐるのだ。君は天を想はないで地を想つてゐる。地には君のナナがゐるからな！　噂に聞けば、君はこの釘を打ちこんで地上へ下りてから、あのナナとの結婚式を擧げるつもりだそうだな、愚。君の有頂天の哀れなことだ。あのミラノの奴、うまく言つて邪魔になる君をこの塔へ追ひ上げ、そのひまにあの妖婦のナナと手をとつて、神の手のとどかない所へ逃げやうと言ふのだ。もうあの日から九十九日が經つた。多分あの二人はもう地の果ての地獄へまで逃げ終せたゞらうよ。僕から二年前にナナを奪つたのが君だ。今、君からミラノがナナを奪つて行つたのだ！

ネルバ。何とでも言ふがいゝ。あのナナが夢にもそんな女だと言ふのか！　君の嫉妬が怖ろしい君はミラノに拒まれて、この高塔の建築家の總監になれなかつたので、ミラノを無下に惡口するのだ。さ。早くその釘をこゝへ立てゝくれ。それを素早く僕が打ち込んで、即座に水の如うに塔を下り初めなければならぬ。九十九日もかゝつてはたまらない。もう今から九十九時間も大走りすればあの美しいナナの笑つた顏をあかずに眺められるのだ。あ。……自分はナナを信じてゐる。ナナがどんなに高貴なものだかと言ふことが、今、實に痛切にわかる。あ。たまらなくなつて來た。ああ！　ナナよ！　ナナよ！　こんな塔が九十九あらうと、ナナ一人には代へられまい。……さ。ラビハテ。早く僕に釘を打たしてくれ。

ラビハテ。僕はこの釘をたてるのは止さう。……否。それとも、……さうだ。素晴らしい考へ

だ！……僕はこの塔の頂上へ、「祝福されたるノアの後裔、光榮あるアルキ族の大々建築家ラビハテ、この高塔を建つ。」と大きく署名してやらう

ネルバ　あ！　ラビハテ。君はこの塔をミラノから奪ふつもりだな！

ラビハテ。いけないと言ふのかい！　何とでも言ふがいゝ。……あゝ。人類が生めるかつて無き大建築家、アルキ族のラビハテの輝かしい名は多分この塔の存在する限り、永劫から永劫の果てまで全世界に憶えられるだらう。君は早く、妖婦の胸へ下りてゆくがいゝ。

ネルバ。よし！　ラビハテ。もう最後だ。二人の最後だ。僕は地上へ下りやう。もう、釘を打つてゐるひまなどありはしない！　大急ぎで、ナナのもとへ下りてゆくのだ！

見知らぬ人。塔は倒れなければならぬ！

ネルバ。あ。下りた　下りた。自分はもう三百二十一階まで下りて來たぞ！　こんな塔が何になるう！　ミラノが塔を建てやうとラビハテがそれを奪はうと、自分には何だと言ふのだ。自分には今こそこの塔の空しいことがわかつた。ナナこそナナこそ、自分の塔だ！あ。大急ぎで下りなければならない。あ！　下りたぞ。下りたぞ。何といふ素早いことだ。もう三百七階まで來た。あ。もうあのナナの笑顔が見えるやうな氣がする！……

ラビハテ。は、は、は。人間と言ふものゝ馬鹿らしさ！　ミラノと言ひネルバと言ひ、何と言ふ阿呆だ。明日にも變り易いあのナナの媚を卑しく求めて、この永劫の塔を忘れやがつた。ふん。ナナは明日は死んでも、この塔はよもや永劫に倒れまい。自分の出鱈目の詭辯はうまくいつた。自分はナナを失つてこの完成の塔を得たのだ。自分こそ、この素晴らしい塔の大建設者といふ名を永劫に荷なうのだ。あ。何といふ氣に入つた勝れた文字が書けることだらう。……あ。……光榮あるアルキ族の大々建築家ラビハ……うむ。……今度はテといふ字だ。……

――俄然、天地を搖つて高塔は倒れる。二人は灰のやうに轉落してゆく。――

見知らぬ人。おお。倒れた。倒れた。バベルの塔は倒れた！……罪の塔は天へとゞくことは能きぬ。汚れの藝術が神をごまかすことは能きぬ。永劫に、人類はバベルの塔を建てることは能きぬ。

――創世記より――

わたしの日記の一節

威曾陀

九月三日　汽車の中は以前にも變らない程滿員だ、私は今度は比較的早く乘り込んだのでシートを占領する事が出來た、しかし兩手は膝の上に合せたまゝ、足は直角に曲げたまゝ、どうする事も出來ない、足の先にも膝の上にも人體の氣持の惡い温みを感ずる、でも、手拭を荷物棚にかけて、つ立つて居る人々に比べてまあよかつたと感謝にも等しい氣持で靜かに眸を閉ざしたが、どうしても睡る事が出來ない。昨夜鹽尻驛頭で興奮し切つた氣で汽車を待つてやつと乘り込んだのが今曉三時過だ。もう夜も明けるだらうと思つて目を開くと人の息氣と煙草の煙でボンヤリ電燈が灯つて居る、眠つて居る人は一人もなさそうだ、焦悴し切つた顏は眞黑に、ほんとうに眞黑に燻つて居る。それは平常の時でも東海道の汽車の中で眞夜中に見受ける光景にもつともつと形容詞をふりかけた有樣だ、ぐんなりと、そこには何の生の力もなく丁度月見草が夏の午後踏みにじられた光景である。

暑い、その暑さが全く嫌やな暑さだ、信濃の國は夏でも寒いと聞いて居るのに、しかも汽車は山間を曉に走つて居るのに、それでも私はうつらうつらしてびつしより汗をかいた、再び眼を開いて首を回して窓外をチラと眺めた、夜は充分に明けて山の姿、樹々の姿を充分見る事が出來た、汽車は相變らず山間を走つて居るらしい、汽車は急に速力を緩めたと同時にトンネルに入つて居た、緩めたと云ふよりも、止つた樣だつた、そして耳の底でコトコトコトと、私は急に息苦しくなつたと思ふと、アー苦しい、暑い、オイ入口を閉めよ：車中は急におめきたつた、私は背に熱湯をかけられた樣な暑さを感じたので、暑い！　と喊けんで立ち上つてタオルを口にあてゝシートに顏をふせた、しかし、もう堪へられない息苦しさを感じた、隣の人も私の膝に噛みつく樣にして居る。

人々のおめきは漸やく止んで恐ろしい沈默になつた、私はコレハいけないと思つた、そして死の恐怖に悶へた、『死ぬんだなあ、』と思てふ實に殘念だなあと思つた、而し汽車がトンネルを出たらそこに村が在つたら私たちの或る者は助かると思つた、自分だけは生きてゐなければならない、死ぬものかと悶えたが、ますます息苦しくなつた　耳の皷幕が非常に壓迫されて來た、そして今にも身體の何處かゞ一度にバツと來るんじやないかと思ふと死とか生とかを思ふ猶豫もなくなつた、いけない〳〵と思つた……急にゴーと云ふ音と共に氷の樣な空氣が入つて來た、眞黒な、そして今迄の沈默の客車の中は急に生き更つた樣な聲が起つた、まもなく列車はトンネルを過ぎた、マブシイ朝の光線と共に冷やかな空氣が入つて來た、人々の顔と云はずシャツと云はず凡て眞黒になつて居るが、それでも皆の顔には喜びの色が充分にあつた、そして今の苦しみを互に語り合つて居た、ふと窓の外を見るとそこには今までと異つて驚く可き雄大な爽々してパノラマが展開されてゐる　汽車は間もなく驛に止つた、嫉捨山だ、私は窓外に體をつき出して眺めた、目の下廣く開けた平野の中に犀川が大きなカーブで流れてゐる、白い壁の村が點々としてその流れのこゝかしこに光つてゐる、その彼方に信濃の山がつ立つて遙かに淺間が靜かに煙を晴れた空に上げてゐる、左にはまた北アルプスの連山が力強いヒダを朝日に輝らされて青紫に光つてゐる、何と云ふ雄大な崇嚴な景色だらう、私は凡てを忘れて恍惚となつてたゞ目の前に展けるこの一大パナロマを右から左へ左から右へと眺めた。

あゝ自然よ、自分は今自然の手に依つて成された一つの惡戲に依つてなされた大東京の破壞された事を心から悲しんでゐる、だが、しかし自然よお前はほんとうに惡戲をなす程の皮肉をもつてゐるのか、私には今どうしてもそれを信ずる事が出來ない、それでは、人間の反逆に對する復讐？お前は小さい人間に對して復讐する程狹量か。私はそれも信ずる事が出來ない、自然よ、私は今心からお前の溫かい懷ろに、たゞ抱かれたい、無條件に！　信仰的に!!!

（震災日記の一節より）

復興と修養

山本辰次郎

九月一日の關東大地震は有史以來の大震災であることは云ふまでもないことで「ヴエスビヤス」の噴火や最近米國桑港の大震災の慘害も到底之れに及ばなかつた程で實に世界歷史上類例のない一大慘禍を呈したのであります。之れが爲めに震災地方の狀態は言語に絶へたるもので多くの建築物と何萬かの人類を失ひ幾十億の財寶を一擧にして烏有に歸し五十年來發展進捗しつゝある我國の文化をして一網打盡となしたのであります、そして昨日まで東洋第一の繁榮を誇る大東京並びに横濱方面は今や大半焦土と化し見るもの聞くものをして只だ茫然自失の外はなかつたのであります。

茲に於て吾人は此の大慘害に直面して大いに起たなければならぬのは當然ではあるが殊に我々建築家と名をつくものは建築其物の缺陷のみならず其の他所有る事物に就いて非常の敎訓と經驗を得たと同時に更に重大なる責任を有することゝなるのであるから層一層の努力と覺悟を持たねばならぬと思ひます。現時政府は帝都復興に全力を擧げて居ます無論重要なる使命であるが此の復興たるや政府其のものゝみに委ねべきではない帝國全民衆が擧つて此の使命と責任を持たねばならぬ即ち我々國民が大努力をもつて復興の大事業に當り更に明治維新の精神を體し國威の復興をも達成しなければ止まないのであります。

此の震火災に就いて之れを宗敎的に考ふも一つの見方であらうと思ふ、震災以前には一般に於て華美であつて人心は慥かに廢頽的氣分に滿ちて居た此の有樣で進んで行つたならば人心の荒廢は如何なるであらうかと不安に堪へないものであつた一體文化が爛熟すると斯ふなるのは當然であるかも知れない、遠く「ローマ」のためしを迎り德川末

期の文化文政の狀態を見ても知ることが出來る。大正の文化も此の意味に於て爛熟したものと見てもよいと思はる、即ち骨董品の高價、衣裝の華美性的道德の弛廢、人心の逸樂を追求する等悉く之れを語り表明して居るではないか、此の域にあつて少しく志のあるものは必ずや何人と雖も之れを憂へざるを得ないと思ふ、殊に宗教家ならば更なり其の攝理の不思議或は天譴として恐れるも決して無理ならぬことでありませう、然し吾人は徒らに天譴に恐れ攝理の妙に畏み只管懺悔謝罪するのみに止まりたくない過去は過去として現在に於て我々は其の大いに爲すべき事業に奮勵努力すべきは勿論人の道たる所であらうと思はれます。

斯くの如く我々の前には大使命の責任がありまず。然らば徒らに過去を顧みて悲嘆慷慨に耽らず將に宗教家の敬虔さをもつて誤まれる過去ならば之れを匡正し將來に生きなければならないのであります、然し將來の使命を遂行するものは過去を顧みて匡すべきものならば此の際一轉機を劃する必要があると思ふ、此の意味に於てすれば今回の大震災の如きは天譴と見るべきでなく將に我々の覺醒を促がすべき大鐵槌であつて耶蘇で謂ふ愛の嚴しき顯はれと見るが至當であらう、我々民衆は果して此の震災前に於て各自其の精神に緊張があつたか甚だ疑はしいものであらうと思はれます。

帝都の復興と共に我々も又た精神的復興を期せなければならぬ。そして國家社會の動搖をも此の精神に基き復興せしめねばならない、之れ等は大正民衆たる我々の大なる使命であらねばならぬ、即ち此の大使命を遂行するには當然潑溂剛健なる意氣と果斷不屈の精神力の必要なることは云ふまでもない順理でありませう、飜つて現代の社會民衆を顧みれば果して此の大任を全ふし得る精力の持合はせありや、否之れを檢尋すれば蓋し思半に過ぐるであらう、文化文政時代に幕府の直參三河武士が其の本量たる氣骨心を失し又た町人共が淫蕩の歡樂に浸しみつゝあつた、其れかあらぬか現代何れを見ても精神の緊張を缺いで居る之れを德川末期に比して何程の相違を見出し得るでせう。

斯くの如き弛緩した精神をもつて何をなし得る

や期待の外である、今や帝都の大半は焦土と化し人を殺すは十萬と聞く、大正文化の華に幻滅の日が來たのである。宗教家は之れを神禍佛罰と見るも強ち無理ならず。蓋し天の下せし一大警醒の響きを聞かなければならぬ。そして此の際少なくとも精神改造の機會と考へねばならない、剛健質實の氣力を發揮し人心弛緩の惡風を除去し以て當然覺醒せねばならぬ場合に立ち入たつたのであります。此の度の大災禍に當面して何人と雖も之れによりて非當の敎訓を得、必然覺醒を促さゞりしものは無いでせう、帝國七千萬の同胞は等しく此の敎訓をもつて今後の行動に就いて深く覺醒を固めたことは言ふまでもなく明かであります、明治大正の民衆は太平の民である。餘まり順調過ぎたのである、先帝陛下の御稜威に浴し其の勞を知らなかつた、そして一回も國難に遭遇せず然かも日清日露の大戰も勝利に快しとなり、歐洲戰爭には寧ろ國富を增した位ひである。即ち大困厄に遇つたと云へば今度の震災のみである、其れが餘りに急激であつた爲めに其跡の慘憺たるに似ず試練を受くることが極めて淺かつたのである、之れを五年も六年も久しき國運を賭して戰つた歐洲諸國に比すべくもない、故に覺醒したとしても覺醒の持續はどうであらうか。

之れを永續せしむるに唯に言說のみにて其效果は決して得られない、宗敎家は之れを說いて之れを永續せしむる力を與へない、然し神明の加護はあることはあらうが、祈禱の應驗が響きの聲に應ずるが如き的確なるものであるか甚だ疑はしいものである　今日の場合國民の欲する處は此の大震災によつて覺醒し而して之れが復興の精神を持續する爲めの力であらねばならない、此の偉大なる力は如何にして養ひ得るか、此の解決は即ち精神の修養と肉體の健康とに與る心身鍛錬に基く外は無いのであると思ふ、我々建築家は更なり吾人は須らく此意を讃美し愈々出でて心身の鍛錬を修養し以て各自の大使命を果すべく願ふ次第であります。

最後に心身鍛錬の修養は世上種々の方法ありと雖も其の大方は消極的のものにして然かも現代に

適應せるもの少なし、茲に前代議士、辯護士江間俊一先生は過去三十年來の修養と實驗とによる心身鍛錬法を現代に適應せる處生的修養法を案出せられ去る大正七年より自己の職業並びに政治界を退き靈界に入り一意專心世道人心の劃正に努力すべく目下之れが宣傳に從事せられ居る次第であります。此の鍛錬法は極めて積極的にして進取的努力主義であり然かも其の說くところは現代的一大宗敎論であります、決して他に比類すべきものにあらず、志あるものは速かに此の江間式心身鍛錬法を修得し以て自己一身の爲めのみならず國家社會の爲め、間式人道を踏み益々其の偉大なる心身に與り奮勵努力せられんことを希ふ次第であります。

炎の海燃えて走らふわが舟の
舷くだくあゝ何の魚

「建築と社會」特價分讓

本會發行の雜誌「建築と社會」を創刊號以下大概取揃へて餘分を持ち合せてありますが此の際左記特價を以て御頒け致しますから至急御申込み被下いまし

日本建築協會

左記

第一輯（各號一部ニ付）特價金拾五錢
第二輯同金拾五錢
第三輯同金貳拾錢
第四輯同金貳拾五錢
第五輯同金參拾錢
第六輯同金四拾五錢
（自一號至六號各一部ニ付）
（自七號至十號各一部ニ付）同金七拾錢

○代金は御申込みと同時に御送附を願ひます
○御便宜のため壹圓以下は郵便切手でも差支へありませんが振替口座へ御拂込み被下ば尙ほ一層御便宜でムります

日本建築協會々報

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ノ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントスル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成ノ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關係スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ其寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ其履歷書及業績ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込ミ其履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込ミ其履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ決議ヲ爲スニハ會員ノ三分ノ二以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納ノ會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

書記　若干名

主記ハ會務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ臨時委員トスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ決議ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ發表スルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ノ審議ノ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ニ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル圖書ノ刊行

五　建築ニ關スル講演會ノ開催

六　建築ニ關スル展覽會ノ公開

七　建築ニ關スル視察

八　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

九　理想的建築ノ計畫

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十一　第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

十二　第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

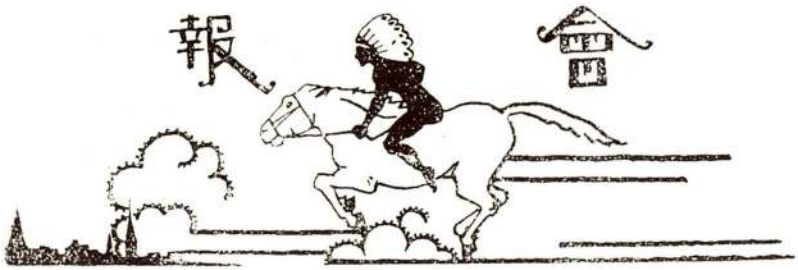
第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產積立積立債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積立債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



會務

一、關東震災調査公開講演會の件

本協會は關東震災地踏査を了りましたので報告書を以て報告するに先ち各地に講演會を開いて居ります。第一回を大阪市に第二回を名古屋市に開催して何れも盛會裡に閉會を致しました。今回第三回を十一月十三日午後六時神戸市に於て神戸新聞社及神戸又新日報社後援の下に都市計畫兵庫地方委員會と共に兵庫縣公會堂に於て開催致しました。當夜の聽講者無慮八百名多數の婦人聽講者も交つて非常に盛會なる大講演會でありました。演題及講演者左の通

開會の辭　兵庫縣都市計畫地方委員會事務官　藤岡　長和氏

震災と都市計畫　兵庫縣都市計畫地方委員會技師　工學士　置鹽　章氏

關東震災の教訓　理事長　工學士　池田　寶氏

震火と公園　神戸高等工業學校教授　工學士　古宇田　實氏

震災と火災　東京美術學校教授　工學博士　片岡　安氏

閉會の辭　理事　設樂　貞雄氏

幻燈說明　震災調査委員　古塚　正次氏

第四回を京都府及京都市後援の下に十一月十六日午後六時同市岡崎公園公會堂に於て開催致しました聽講者七百餘名是亦盛會裡に閉會を告げました演題及講演者左の通

開會の辭　都市計畫地方委員會事務官　松島　源藏氏

關東震災の教訓　理事長　工學士　池田　寶氏

火災に對する建築の防備　震災調査委員　工學士　日高　胖氏

將來の都市計畫　震災調査委員　工學士　橫濱　勉氏

地震と火事　震災調査委員長　工學博士　武田　五一氏

閉會の辭　京都市都市計畫調査課長　京都市都市計畫事務主事　重永　潛氏

幻燈說明　理事　工學士　園部　文雄氏

右何れの講演會に於ても後援者の熱誠なる御援助を受けましたことは本協會の洵に感謝に堪へざる處であります

本講演會第五回は堺市に於て開催の豫定であります

二、昨年秋豐能郡櫻ケ丘に於て本協會主催住宅改造博覽會を開催しますに付て本協會には臨時博覽會部を設け夫々の役員職

員を置き事務を取扱て來ましたが今回全く終了して十一月八日の理事會に於て本協會へ剩餘金並物品其他の引繼を完了致しました。從て臨時博覽會部は解散となつた次第であります。博覽會報告書は追て配付する豫定であります。

三、當協會發行の雜誌「建築と社會」の表紙を來る新年號から更新することになりまして今回左の規程により其の圖案を懸賞募集いたして居ります。奮つて應募を期待いたします。

「建築と社會」表紙圖案懸賞募集規程

(一)題　字　建築と社會、第七輯第壹號、日本建築協會、大正十三年一月一日と適當に配別記載する事

(二)寸　法　菊版型(竪七寸三分、横五寸)

(三)着　色　二色までとす

(四)圖　面　原圖紙を用ひ、現寸とす

(五)意　匠　隨意なるも、本誌の特質を表現するに足るものとす

(六)賞　金　壹等一人五拾圓、貳等一人參拾圓、參等一人貳拾圓

(七)期　日　締切期日十一月三十日午後五時までに當事務所へ到達するを要す

(八)版　權　當選せる圖案の版權は當協會の所有とす

(九)審　査　當協會の理事會が依囑したる特別審査員の合議に依りて當選を決す

(十)符　號　圖面には適宜の符號を附し別に符號住所及氏名を記入せる半紙四ツ切りのものを封書にて差出す事

(十一)發　表　審査の結果は當協會大正十二年十二月例會に於て發表し賞金を授與す

追て應募圖案は返却せず

四、普通贊助員牛村喜知氏十一月三日逝去の訃報に接しました洵に哀悼に堪へません本協會よりは御遺族へ弔狀を發送致しました

會合

○臨時理事會

△日　時　十月三十日午後五時―八時三十分

△會　場　本協會會議室

△出席者　片岡副會頭、池田理事長、宮本理事、佐藤理事、園部理事、小川會務委員、置鹽草氏、西谷書記

△議　事

一、會誌寄贈先整理に關する件

二、名譽贊助員推薦に關する件

大阪府知事中川望氏外十六名を本協會名譽贊助員に推薦することに決し十一月例會に附議することに可決

三、新に會誌を寄贈すべき個所の件

二十五都市の市都市畫部及二十五都市所在の縣都市計畫地方委員會へ寄贈のことに決す

四、神戸市に於ける關東震災講演會に關する件

本夕來會の置鹽草氏と諸般の打合せをなし愈々十一月六日(火)開催のことに決定す

五、京都市に於ける關東震災視察講演會開催の件

京都府知事其他へ依頼狀發送のことに決す

六、岡山市に於て開催の災害豫防展覽會に會誌寄贈の件

七、臨時例會開催に關する件

八、其他雜件

○震災調査委員編輯會

△日　時　十一月四日午後五時―八時
△會　場　本協會會議室
△出席者　武田五一、光安梶之助、小笠原銅本野精吾、設樂貞三、木多二郎、古塚正治、谷田實、安井武雄、園部文雄、江村書記
△記　事　關東震災調査報告書作成に付編輯方法其他に付協議する所ありたり

○博覽會幹事會

△日　時　十一月五日正午―二時三十分
△會　場　大江ビルヂング大洋軒食堂
△出席者　片岡會長、葛野幹事長、波江常務幹事、小笠原常務幹事、瀬戸幹事松本幹事、吉木幹事、西谷書記
△議　事　博覽會殘務事務愈々終了せしを以て報告書及協會への引繼に關し協定する所ありたり

○理　事　會

△日　時　十一月八日午後五時―十時
△會　場　本協會會議室
△出席者　片岡副會頭、池田理事長、園部理事、設樂理事、佐藤理事、宮本長理事、小川會務委員、谷會務委員安井會務委員、葛野博覽會幹事長、小笠原博覽會幹事
△記　事　本夕葛野博覽會幹事長及小笠原博覽會幹事理事會に出席ありて博覽會部事務全部終了に付協會への引繼書類を提出し詳細說明を加へ剩餘金及物品の引繼を了したり
△議　事
一、四大都市の都市計畫事業促進に關する件及帝都復興に關する件
二、十一月例會に關する件
臨時例會開催するに付定例會は延期すること
三、會計事務員に關する件
四、會誌表紙圖案懸賞募集の件
會誌表紙を來年度より更新することゝし懸賞募集により撰擇することに決し募集案を協定す
五、關東震災講演會に關する件

六、會員銓衡

○臨時理事會

△日　時　十一月九日午後四時卅分―六時
△會　場　本協會會議室
△出席者　片岡副會頭、池田理事長、園部理事、宮本長理事、谷會務委員、安井會務委員
小川會務委員
△議　事
一、四大都市の都市計畫事業促進に關する件及帝都復興に關する件
右具體案に付協議せり
二、京都及堺市に於ける關東震災講演會に關する件
右講演者其他に付協議する處ありたり

○臨時例會

△日　時　十一月九日午後六時三十分
△會　場　堂島ビルヂング二〇七號室
△出席者　副會頭片岡安、理事長池田實、理事園部文雄、宮本長治、會務委員安井武雄、谷氏藏、小川安一郎、會員澤原隆夫、中村琢治郎、小笠

原鉦、中川廣、岡本新次郎、池田谷久吉、橋本舜介、池村元之助、下浦光衛、伊藤正文、武田五一、服部萬次郎、樋口辰太郎、松本儀八、竹中球一、近澤武男、佐々木岩太郎、柳下實、呼子正、古塚正次、高田利一郎、瀬戸文吾、浦英之助の諸氏

△記事

一、池田理事長より開會を宣し同理事長より四大都市の都市計畫事業促進の必要を述べ本協會より當局に對し建議提出致したきに付腹藏なく意見を吐露せられたき旨を述べ園部主記より理事會に於て研究したる事項を說明し了るや池田理事長座長席に着き愈々本問題に入る

△議事

一、四大都市(東京横濱を除く)都市計畫事業促進に關する件

各員の意見百出結局委員會を設け審議することに可決し同時に委員數を詮議の結果二十名と決定す

以上決議したるも出席會員數規定數に滿たざる爲假決議となし通信決議に依り決定することに決す

二、帝都復興に關する件

本件は前項の委員會に附託して審議することに可決せり

三、名譽賛助員推薦の件

園部主記より大阪府知事中川望氏外十六名の職氏名を讀上げ本協會名譽賛助員に推薦したき旨を述べ賛否を計りしに異議者なく可決したるも出席會員少數のため本件も假決議とし通信決議によることに決す

四、園部主記より會務報告ありて散會せり

○新入會員

(會員)竹内綠君、楠田實君

(普通賛助員)山中豊三郎君、工藤覺二君
黒瀨地芳太郎君、神戸重吉君
八木幸助君

○退會者

(普通賛助員)堀宇一君

○住所移轉

松江秀季君 京都市上京區田中里ノ内町二一

大原芳知君 大阪府下豊能郡箕面村字平尾松原通四五

池上德一君 兵庫縣武庫郡御影町上右屋字八色岡三七

高松吉三郎君 神戸市長田町二丁目一五ノ二七

山本喜一君 東京市小石川區武島町三三精會内

山本一善君 德島縣海部郡牟町一二四

小貫賴政君 大阪市外天王寺字阿倍野六〇九一

岸本日出次郎君 靜岡縣熱海都市計畫靜岡地方委員會内

小林巳之造君 横濱市臨時建築部

藤山國次郎君 名古屋市千種町大日本麥酒會社名古屋工場

福吉一君 大阪府下西成郡蘆洲町大仁三〇一ノ一六

寄贈圖書

庭園 八號 同協會
住宅 九號 住宅改良會
建築雜誌 八號 建築學會
材木新聞 每號 同社
金屬工業新聞 每號 同社
經濟資料 八號 東亞經濟調查會
都市公論 八號 都市研究會
土木建築 十一號 日本實業與信新報
建築世界 八號 同社
工業評論 九號 工業評論社
帝國鐵道協會々報 五號 同協會
建築畫報 九號 同社
都市と建築 片岡安
國民經濟雜誌 三五卷第四號寶文館
通俗衛生 五號 大阪府衛生課
電氣學會雜誌 八號 同學會
朝鮮と建築 五號 朝鮮建築會
工業の友 九號 工手學會
滿洲建築協會雜誌九號 同協會
建築の普及 九號 帝國工業教育會
建築業協會月報 六號 建築業協會
新住宅 九號 洪洋社
電氣評論 十一號 電氣評論社
大阪市商工時報 五號 市役所商工課
工業之日本 九號 工業之日本社
名古屋工業會々報五號 同會
會報 七號 名古屋工業會
都人 第七光都人社
住宅研究 六號 文化建築社
活人 十號 同社
工政會々報 八號 工政會
柊 一號 柊會
早稻田建築學報 二號 早稻田大學建築學科教室早苗會
日本美術協會報告 第十二輯 日本美術協會
朝鮮鐵道協會々報 第八月號 朝鮮鐵道協會
中央建築 第一卷第一號 中央建築社
都市復興號 十一號 都市研究會

役員及職員

副會頭片岡　安
理事　池田　寶（理事長）
理事　宮本　長治（主計）
理事　園部　文雄（主記）
理事　設樂　貞雄（編輯）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　宮本　金七（編輯）
理事　本田　登
理事　佐藤　彰美
理事　竹腰　健三

臨時會務委員
（主計）宗　兵藏
（編輯）小川安一郎
（編輯）谷　民藏
安井　武雄
野村　一郎

職員
江村　郊邨
西谷　節
清川　伊佐
伊藤二世子
（囑托）越山　逵

會員	二七一	會員（地方）	一〇四
名譽賛助員	七一	終身賛助員	五五
特別賛助員	二九	普通賛助員	四七七
合計（十月廿五日現在）		一〇〇七	

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅	廣告	種別	金額
	一册	七拾五錢	貳錢		半頁	八圓
					一頁	拾五圓
	十二册	九圓	貳拾四錢	料	特別頁ハ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

大正十二年十一月廿五日印刷
大正十二年十二月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一　江村恒一
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所
發行所　日本建築協會
大阪市北區絹笠町九大江ビルヂング三十七號室
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第六集第十二号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
大野正営業所
内外木工所
島田硝子製造所
内田商事
佐倉金庫店
阿部鉄工所
ミドリ商会
北島安太郎商店
飾磨化学工業
野沢幸三郎商店
瀧山商店
南満鉱業
文化工業
石綿スレート
木下商店
高谷商店

山本東作商店
田村商会
建築金物商会
金剛商会大阪支店
今井硝子店
横河橋梁製作所
HANKEN SEISAKUSYO
井筒政蔵商店
森川組
佐伯捨次郎製作所
大福海上火災保険
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所

葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所

前田松本建築事務所
西原衛生工業所
砂崎
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組営業所

駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
辰巳吉之助
清水組大阪支店
森本建築社
銭高組
清水福太郎
大阪青写真調製所
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
高島屋呉服店
コルク工業
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所

新田ベニヤ製造所
サンタイ社
日本ホロタイル
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
品川白煉瓦
三枝商会
日本木材工芸
東京電気
大理石工業
ベニス工房
作田工務所
城口汚水処理研究所大阪支店
米本栄商店
田中タイリング商会
亀井商店
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業

岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
日本工剤
米山製作所
高田商会
政正
関西ステインド硝子製作所
桐田商会
尾崎機械研究所
大阪窯業
旭硝子
筑紫商会
川崎工場
日米板硝子
山中商会
建築金物商会
北小林酒井衛生工業部
サカイブン

東洋コルク工業大阪出張所
境川文庫
岡部商会
三宅茂雄商店
田中源太郎商店
極東板硝子工業